年　報

令 和 ３ 年 度

徳 島 県 立 図 書 館

ま え が き

徳島県立図書館は、大正６（1917）年に開館し、本年で１０４周年を迎えます。長い歴史の中で、県民の皆様方のご理解とご協力等によりまして、蔵書数は約１７０万冊（R2年度末現在)、年間貸出冊数は約６１万冊（H28～R2年度平均）と、全国でも有数規模の図書館として運営させていただいております。心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、令和２年度は、当図書館にとりまして、忘れがたい特別な年となりました。
第１に、「新型コロナウイルスへの対応」です。当図書館におきましても、感染拡大防止のため、「マスク着用」や「手指消毒」、「３密の回避」を徹底するとともに、「ソーシャルディスタンスの確保」のほか、カウンターへの「飛沫防止パネルの設置」など、利用者及び職員の双方が感染しないよう対策を徹底して参りました。その一方で、感染拡大防止対策の一環として、県教育委員会からの要請に応え、「電子書籍閲覧サービス」のＩＤを県立学校の児童生徒の皆さんや教員の方々約２万人に付与させていただき、自分のパソコンやスマホで「事典や図鑑等の電子書籍」を手軽に閲覧できるようにするなど、デジタル化をより一層推進することができました。
第２に、「文化の森開園３０周年の取り組み」です。当図書館では、「図書館タイムマシンー現在・過去・未来ー」を開催し、これまでの歴史や収集してきた多岐に亘る豊富な資料の変遷等を知っていただくことができました。また、作家で脚本家の冲方丁（うぶかた・とう）氏を講師としてお迎えして「創作活動とデジタルアーカイブ」をテーマに講演会を開催し、「知識の体系化」や「アクセスしやすさ」の重要性とともに、文化継承のためにデジタルアーカイブが果たす役割等について再認識することができました。
第３に、「当図書館を含む『文化の森総合公園』の知事部局への移管」です。これは、「第９次地方分権一括法」の施行に伴うもので、図書館、博物館などの社会教育施設については、地方自治体の判断により知事部局が所管できることになり、令和２年４月から「文化の森総合公園文化施設」は、「未来創生文化部」に移管されました。
今後、当図書館は、これまで教育委員会で築いてきた社会教育のさらなる振興はもとより、「文化・観光振興」をはじめとする関連分野との一体的な運営を図ることにより、幅広い方々が集まる「地域の学習拠点」としての機能を一段と進化させるとともに、世界に誇る「あわ文化の発信」や「国内外からの交流人口拡大」にも積極的に取り組むなど、より一層の地方創生を推進して参ります。

「こどもから高齢の方まで、幅広い年代の多くの県民の皆様が、文化的な生活を送れるよう『図書資料とのめぐり合い』を支援していくこと」－これが、当図書館のミッションであると認識いたしております。そのため、令和３年度のスタートに当たり、令和７年度までのサービス向上のための運営方針である「徳島県立図書館サービス向上目標（第４期）」を策定し、さらなるサービスの充実に取り組むことといたしております。
今後も、引き続き、感染拡大防止対策を講じながらの「ニューノーマル（新しい日常)」に対応する様々な行動変容が求められると予測されますが、従来からの「来館サービスの充実」に加えて、「電子書籍の充実」「デジタルアーカイブの拡張」「オンラインによるレファレンスの強化」など、ＤＸ（デジタル・トランスフォーメーション）も駆使した多様かつきめ細やかな図書館運営に努めて参ります。
これからも、当図書館が「県内の図書館ネットワークの中核」としての役割を担い、県民の皆様方の多様な「知りたい・調べたい・学びたい」に応えていくとともに、県全体としての図書館サービスの向上も図って参りますので、この年報をご一読いただきまして、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和３年６月

徳島県立図書館長　　藤川　隆

目　　　　　　次

Ⅰ　運営の基本方針 ---------- 1

　令和３年度重点事業 ---------- 1

Ⅱ　令和３年度事業計画 ---------- 2

　令和３年度図書館予算（当初）の状況 ---------- 7

　徳島県立図書館資料収集方針 ---------- 8

　徳島県立図書館資料収集・選定運用基準 ---------- 10

Ⅲ　令和２年度事業報告 ---------- 14

　1　企画振興担当関係 ---------- 14

　2　調査・郷土担当関係 ---------- 15

　3　資料・児童担当関係 ---------- 17

　4　図書館システム関係業務 ---------- 19

　5　他機関との連携事業ほか ---------- 20

　6　諸統計 ---------- 24

Ⅳ　管理 ---------- 26

　1　組織機構・職員 ---------- 26

　2　施設・設備 ---------- 27

　3　沿革 ---------- 28

　4　歴代館長 ---------- 29

Ⅴ　令和２年度行事記録 ---------- 30

Ⅵ　新型コロナウイルス禍の図書館サービス ---------- 35

Ⅶ　文化の森開館30周年事業 ---------- 36

データで見る徳島県立図書館の現状 ---------- 37

徳島県内市町村立図書館一覧 ---------- 38

徳島県立図書館案内図 ---------- 39

開館時間・休館日 ---------- 39

付録:徳島県立図書館サービス向上目標（第４期）～新たな環境下の県立図書館サービス～
（令和３年３月）　1 ～ 6

Ⅰ　運 営 の 基 本 方 針

(1) 図書館法と「ユネスコ公共図書館宣言」の理念に基づいて、図書・記録その他の図書館資料を積極的に収集・整理・保存して、地域社会の人々に対する利用に努める。

また、行政資料を含む郷土資料を積極的に収集保存し、県内における資料センターとしての役割を果たす。

(2) 市町村立図書館への援助・協力を行い、市町村立図書館と協力してすべての県民への図書館サービスの充実を目指す。

また、図書館未設置町に対して、図書館の設置を促進し、県内図書館網を充実する。

(3) 県民の読書活動及び図書館利用を促進し、文化の向上に資する。

また、すべての子どもの自主的な読書活動を推進するために、関係機関や団体と連携し、資料の充実と子どもの読書環境の向上に努める。

(4) 公共図書館、大学図書館、学校図書館、試験・研究機関との連携を行い、県民へ資料、情報を提供し、サービスに努める。

(5) 県民の学習、調査、研究、レクリエーションセンター、生涯学習の場として、県下の図書館網の中核施設として位置づける。

(6) 阿波学会等地域の学術研究団体と連携し、地域に関する科学的調査に協力し、学問と文化の振興に寄与する。

令 和 3 年 度 重 点 事 業

徳島県における図書館ネットワークの中核として、広域的な視点でその専門性を活かしながら、県民のニーズや課題に生涯を通じて応えていくとともに、県全体としての図書館サービスの向上を図るため、新たな環境下における非来館型サービスを含む、一歩先の図書館を見据えた「知の拠点」事業を引き続き推進する。

(1) 図書館「知の拠点」事業の実施

「子どもの読書習慣をはぐくむ図書館」「デジタル機器も活用した知的探究を応援する図書館」「市町村立・学校図書館をしっかりサポートする図書館」「専門性の強化」を目指す。

(2) 県の中核図書館としての図書館資料の収集・整備・提供

- 県内外の図書館・関係機関との連携機能の強化
- 子どもの読書活動の推進、子どもの本の「資料センター的機能」の充実
- 徳島に関する幅広い資料の収集・充実
- 地域資料のデジタル化の推進、「デジタルアーカイブ閲覧システム」の拡張と地域資料提供の利便性向上
- 電子書籍閲覧サービスの充実

(3) 県民のさまざまなニーズや課題解決の支援

- 読書バリアフリーの環境づくりに必要な資料や機器、サービスの整備
- 子育て支援、行政支援、医療・健康情報等の収集・提供
- 地域振興や起業、就労に役立つ資料の充実

Ⅱ　令 和 3 年 度 事 業 計 画

区分	事業名	趣旨	対象	時期	方法（内容）
企画振興担当	徳島県立図書館協議会	館長の諮問機関として、県立図書館運営の基本的事項を審議する。	協議会委員	年１回	諮問事項の審議等。
	徳島県公共図書館協議会	県内公共図書館の連絡協調を図る。	県内公共図書館	理事会（書面表決）研修会年３回	活動状況の意見交換や相互協力について検討する。職員の研修会、図書館大会を開催する。
	徳島県読書振興協議会	県内読書推進機関の連携協力を図る。	市町村読書振興協議会　他	年　間	読書振興大会を開催するための援助等を行う。
	協力車の運行	県内図書館間協力のため、協力車等により資料の貸出、県内図書館間の相互貸借等を行う。	市町村立図書館・図書館未設置町教育委員会	毎　週	市町村立図書館・図書館未設置町教育委員会からの貸出希望に応じる。
	相談業務	図書館や類似施設等に、相談・助言を行う	県内公共図書館等	年　間	図書館業務全般の情報交換等を行う。
	団体貸出	職場の団体やグループ・学校・施設などに対して、資料を一括して貸し出す。	職場・団体・学校等	年　間	来館して直接選択してもらい、一括貸し出しをする。
	読書会文庫	市町村立図書館、読書グループに、同じ資料を１セット5～10冊編成で貸し出す。	図書館、読書グループ	年　間	貸出期間２ヶ月。図書館を通しての貸し出しも行う。
	町立図書館の設置促進	すべての町に図書館が設置されるよう推進する。	図書館未設置町	年　間	自治体の理事者・教育委員会に対して、その重要性を呼びかける。
	学校図書館への協力貸出	学校図書館からの貸出希望に応じて資料の貸出を行う。学校における図書館活動の活性化に協力する。	県内高等学校及び特別支援学校	年　間	希望校が、最寄りの市町村図書館で資料を受け取れるよう、県立図書館から協力車等で運ぶ。
	総合学術調査	阿波学会の協力を得て各々の専門家が地域を定めて学術調査及び研究を行い、文化の推進及び地域貢献に寄与する。	小松島市	年　間	12学会約100名の専門家によって、それぞれの分野で集中的に調査を行う。

区分	事業名	趣旨	対象	時期	方法（内容）
調査・郷土担当（調査）	逐次刊行物の選択・収集・整理	最新の知識情報が得られる定期・不定期刊行物（新聞・雑誌、年鑑、年刊、統計書、白書、政府刊行物、官報等）を選択・収集し、整理する。	一般	年間	逐次刊行物は継続的に収集し、保存のため年次別に整備する。
	逐次刊行物の閲覧と貸出	購入・寄贈雑誌の閲覧と貸し出しや一部ＣＤ－ＲＯＭによる閲覧により、利用者の要求に応じる。	一般	年間	一部を除き貸し出しを行う。
	複写サービス	著作権法にのっとり、複写サービスの適正な運用に努める。	一般	年間	館内利用者及び県内外からの複写申し込みに応じる。
	雑誌スポンサー制度	雑誌スポンサーを募集し、ブラウジングコーナーの充実を図る。	企業・商店・団体	随時受付	スポンサーに雑誌の購入費を負担してもらう。最新号カバー等にスポンサー名を表示する。
	参考図書の収集と整理	各分野の調査・相談に必要な参考図書の収集、整備に努め、利用に供する。	一般 図書館	年間	新刊情報誌等により、選書、収集する。
	電子書籍閲覧サービス	課題解決に役立つ電子書籍を提供する。	一般 図書館	年間	館内端末とインターネットで個人に提供する。
	特別集書の収集と貸出	「橋と川」に関する資料を収集し貸出する。	一般 図書館	年間	「橋と川」に関する資料を収集する。
	データベースの提供	オンラインデータベースを活用し、高度な調査研究に応える。	一般	年間	契約データベースの閲覧専用端末を設置。可能なものはプリントアウトに応じる。
	調査相談活動	一般利用者、市町村立図書館等から寄せられる調査研究の質問に対して必要な資料や情報を提供する。	一般 図書館 県機関	年間	電話・口頭・文書・FAX・電子メールによるレファレンスに対し回答する。
	総合目録ネットワークと相互貸借	国会図書館、全国の公共図書館とのネットワークに参加する。相互貸借により利用者の資料要求に応える。	一般 図書館	年間	総合目録ネットワークシステムへ蔵書目録データを提供する。県外図書館から資料を借り受け、利用者へ提供する。
	レファレンスツールの作成	レファレンスの事例をデーターベース化し、検索ツールとして役立てる。	一般 図書館	年間	レファレンスの回答記録から選定したものなどをデータ入力する。また、公開にも努める。

区分	事業名	趣旨	対象	時期	方法（内容）
（調査）	検索コーナーの管理・運営	来館者の自主的な調査研究を援助する。	一般	年間	利用者用検索端末・デジタル画像閲覧端末を設置し、各種コンテンツを提供する。
	インターネット端末の一般開放	調査研究や知的創造などに欠かせない電子文献の収集を援助・促進する。	一般	年間	インターネットが閲覧できる端末を設置し、Web情報の利用に供する。
調査・郷土担当（郷土）	郷土資料の充実と整理	郷土に関する資料要求に応えるため、郷土に関する資料の収集・整理に努める。	一般	年間	特色のあるコレクションとして一般蔵書と区別して保存し、利用に供する。
	地方行政資料の収集と整理	国、県、市町村への働きかけを強めて、官公庁出版物と地方行政資料の収集整理に努める。Web版資料についても収集に努める。	一般	年間	県、市町村及び国の出先機関等に資料の提供を呼びかける。Web版資料の電磁的記録と利用に関する許諾を求める。
	調査相談活動	一般利用者、市町村立図書館等から寄せられる調査研究の質問に対して必要な資料や情報を提供する。	一般 図書館 県機関	年間	電話・口頭・文書・FAX・電子メールによるレファレンスに対し回答する。
	資料の複写	デジタル化された新聞、郷土資料等の複写サービスを行う。	一般	年間	文化の森デジタルアーカイブシステムによる複写を行う。
	資料のマイクロフィルム化・デジタル化	調査研究資料として増大する新聞情報、貴重資料をマイクロフィルム化・デジタル化して整理保存、利用者に提供する。	一般	年間	現在、収集保存している全国紙地方面を引き続きマイクロフィルム化し、利用に供する。また、貴重資料等のデジタル化に努める。
	図書の展示	テーマにそった郷土資料の展示を行い、関心を高め利用を促進する。	一般	年間	郷土資料の展示を行い、展示資料リストを作成する。
	郷土用レファレンスツールの作成	郷土の事項や人物に関するレファレンス事例データベースを作成し、検索ツールとして役立てる。	一般 図書館	年間	レファレンス回答記録から選定したものなどをデータ入力する。また、公開にも努める。

区分	事　業　名	趣　　　　　　　　旨	対　　象	時　期	方　　法（内　容）
資料・児童担当（資料）	資料の収集と整理	一般貸出資料の選択・収集・整理を行う。	一　　般	年　間	新刊情報により選書し、発注、受け入れ・貸し出しを行う。
	資料の配架と保存	開架図書の利用を促進し、書庫内資料の速やかな出納を容易にする。	一　　般	年　間	オープンスペースと書庫の資料を適正に配列する。
	予約（リクエスト）制度	利用者の希望する資料の予約を受け提供する。	一　　般	年　間	来館・電話・インターネットで予約を受け処理する。
	視聴覚資料の収集と整理	ＣＤの収集・整理を行う。	一　　般	年　間	ＣＤブックを収集し、貸し出しする。（音楽ＣＤは寄贈のみ収集）
	障がい者及び高齢者用資料の収集と整理	障がい者や高齢者のための資料を収集する。	障がい者 高 齢 者	年　間	大活字本やＤＡＩＳＹを収集・整理し、貸し出しを行う。また、据置型・携帯型拡大読書器、活字自動読み上げ機、プレクストークを設置している。
	対面朗読	目の不自由な方に、資料を朗読する。	目の不自由な方等	年　間	来館のうえ、対面朗読協力者が朗読する。
	郵送貸出	障がいのため、来館が困難な利用者に、郵送による貸し出しを行う。	障がい者	年　間	電話、文書等で申し込みを受け付け、図書館資料を郵送する。
	督　　促	期限を過ぎても返却しない利用者に対して督促通知を行い、資料の効率的運用を図る。	一　　般	年　間	郵便と電話により、通知を行う。
	ベストセラー寄贈事業	予約者が多いベストセラー本の寄贈をお願いし、予約待ち期間の短縮を図る。	一　　般	年　間	図書館ホームページや館内にリストを掲示し、寄贈していただく。
	貸出、利用者登録	資料の貸し出しと貸出利用者の登録を行う。	一　　般 児　　童	年　間	貸し出しは、県内在住者、在勤者、在学者に対して10冊22日間。（貸出日を含む）。

課	事業名	趣旨	対象	時期	方法（内容）
	図書の展示	テーマにそった一般貸出資料の展示を行い、関心を高め利用を促進する。	一般	年間	それぞれの時期にテーマにそった図書を集めて展示する。
資料・児童担当（児童）	資料の収集と整理	児童書、子どもの読書に関する研究書、紙芝居、お話ＣＤなどを収集整理する。	０歳～高校生、一般	年間	新刊情報により選書し、発注、受け入れ、保存を行う
	予約（リクエスト）制度	利用者の希望する資料の予約を受け提供する。	０歳～高校生、一般	年間	来館、電話、インターネットで予約を受け処理する。
	調査相談活動	子ども、保護者、子どもの読書関係者(機関)、市町村立図書館等からの質問に対して必要な資料や情報を提供する。	０歳～高校生、一般、図書館、関係機関	年間	電話・口頭・文書・ＦＡＸ・電子メールによる質問に応じる。
	学校図書館との連携推進	学校図書館担当職員の相談・要望に応えることにより、学校図書館との連携を進める。	特別支援学校図書館他	年間	要望のある県立学校図書館を訪問して説明や相談に応じる。
	子どもの読書に関する研修会	公共図書館職員、読み聞かせボランティア、子どもの読書活動推進関係者などが、子どもの読書のすすめ方について研修を行う機会を提供する。	子どもの読書活動推進関係者、図書館	年間	研修会を開催する。
	おはなし会	絵本の読み聞かせなどによって、乳幼児・児童に読書の楽しさを味わってもらう。	乳幼児 児童	月３回	絵本の読み聞かせ、紙芝居、手遊びなどを行う。(月２回はボランティアによる)
	こどもの本コーナーだよりの発行	児童書、子どもの読書関連行事等を紹介するとともに、こどもの本コーナーの広報を行う。	０歳～中学生、一般	月１回	ホームページ「こどもの本コーナー」にも掲載する。
	図書の展示	テーマにそった児童書の展示を行い関心を高め、子どもの読書活動を推進する。	０歳～中学生、一般	年間	それぞれの時期にテーマにそった図書を集めて展示する。
その他	とくしまネットワーク図書館システム等の管理運営	コンピュータ委員会を中心に、「とくしまネットワーク図書館システム」、図書館ホームページなどの管理運営を行う。	一般 図書館 関係機関	年間	コンピュータシステム関連の維持・管理。 マーク登録、蔵書点検作業、ホームページの管理運用などを行う。

令和３年度図書館費予算（当初）の状況

（単位：千円）

事　項　名	令和３年度 予算額(当初)	備　　考
図書館管理運営費	48,155	館内維持管理諸経費 日本図書館協会等負担金 貸出カウンター運営管理等業務委託費
県立図書館 「知の拠点」事業	43,500	一般図書購入費　子どもの本充実費 児童図書購入費　電子書籍コンテンツ契約費 新聞・雑誌等購入費 視聴覚機材・資料購入費 雑誌等製本費
館内奉仕運営費	400	館内サービス提供諸経費
コンピュータ管理運営費	4,173	コンピュータ関係経費 （第６・７期図書館システム修繕関連経費を除く。）
郷土資料調査収集研究費	807	総合学術調査経費 郷土資料収集費
読書活動推進費	3,965	協力車巡回諸経費等 読書振興大会補助金
計	101,000	

徳 島 県 立 図 書 館 資 料 収 集 方 針

Ⅰ　基本的考え方

1　資料の収集選択に当たっては、県立図書館としての基本的性格を踏まえて、図書館法並びに「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に定める資料を収集する。

2　「図書館の自由に関する宣言」（日本図書館協会採択　１９７９年改訂）の精神を尊重する。

3　資料の選定においては、資料の価値及び利用者の要求に十分配慮し、県民の意向や資料収集委員以外の職員の意見も十分反映させる。

4　図書館機能の役割を認識し、効率のよい収集を行う。

5　資料の収集においては、蔵書の各分野別のバランスが適正になるように調整を図り、基本的な図書を中心に広く収集し、かつ、蔵書がいつも新鮮な状態を保つように配慮する。

6　寄贈図書の受け入れについては、前項の収集方針を適用し、その運用については別に定める。

7　寄託資料については、原則として、新たな受け入れは行わない。

Ⅱ　図書選定者の任務

1　出版される資料に関して、豊富な情報、資料を持つこと。

2　担当する領域の資料を読み、その内容を把握すること。

3　図書館利用者のニーズ及び社会の現状について研究すること。

Ⅲ　図書の内容、形態による収集

1　以下の形態を取るものについては収集しない。

(1)　切抜、組立を目的に編集されたもの。

(2)　書込を目的として編集されたもの。

(3)　著しく耐久性に欠けるもの。

2　プライバシー（人権）を著しく損なう資料は、特に内容表現等を検討する。

3　対立関係になる問題を扱ったものについては、双方の主張を収集する。

4　受験参考書、問題集、教師用テキストは収集しない。

5　外国語図書については、利用頻度が高いと予想されるものを収集する。

6　宗教に関しては、バランスを考慮し、特定宗派に偏らないようにする。

Ⅳ　個別基準

＜郷土資料の収集＞

郷土資料の収集に当たっては、次の点について留意する。

1　郷土資料の範囲は、徳島県全域（淡路を含む～近世）とする。

2　郷土に関係した文献及び資料は、すべて郷土資料とする。ただし、その一部分のみが郷土に関係しているときは、必要に応じて郷土資料として取扱う。

(1)　郷土地域について書かれたもの

(2)　郷土の人物について書かれたもの

(3)　郷土出身者、郷土在住者、郷土在職者の著作物

(4)　郷土で発行された図書以外のもの

3　郷土に関する資料は、保存用、貸出用を収集する。

＜参考資料の収集＞

参考資料については、原則として次の種類について収集する。

1　辞　典	7　年　表
2　百科事典	8　地図帳
3　専門辞典	9　書　誌
4　人名（伝記）事典、地名事典	10　索　引
5　便　覧（ハンドブック）	11　抄　録
6　図　鑑	12　統計書

＜児童資料の収集＞

児童の健全な育成に配慮し、収集する。

＜視聴覚資料の収集＞

1　市販されている録音図書（カセット、ＣＤ等)、紙芝居を収集する。

2　郷土に関する資料を収集し、保存する。

＜新聞・雑誌、その他逐次刊行物の収集＞

1　主要な全国紙、地方紙、外国新聞を収集する。

2　広く読まれる雑誌、専門的な逐次刊行物、主要な外国雑誌を収集する。

3　逐次刊行物として取扱う資料の基準は、「逐次刊行物資料判定基準（昭和６３年４月１日制定)」によるものとする。

＜電子書籍の収集＞

辞典・図鑑など調査研究に役立つ資料や郷土資料、図書館の設定したテーマに沿った資料を収集する。

＜マイクロフィルムの収集＞

徳島県に関連するものを収集する。

＜特別集書の収集＞

橋や川に直接関係した内容、テーマのものを収集する。

Ⅴ　資料の収集方法

1　新刊案内、出版目録、各種書評等で選定し、購入・寄贈等により収集する。

2　市町村立図書館および利用者からの貸出希望については、各選定基準に基づき、可能な範囲で収集する。

Ⅵ　資料収集委員会で検討するもの

1　漫画及び漫画に類似した資料

2　一枚ものの資料

3　徳島県立図書館閲覧の制限に関する要綱第２条に規定する関係資料

4　特定の団体、企業等の売り込みによる資料

5　全集、分冊、シリーズ本、自費出版本

6　高額な資料

7　リクエスト資料

8　その他検討が必要と認める資料

Ⅶ　その他

資料収集に関する個別の運用基準については、別途定める。

徳島県立図書館資料収集・選定運用基準

【　趣　旨　】

この運用基準は、徳島県立図書館の資料の収集・選定を効率的に行うため、「徳島県立図書館資料収集方針」に基づき定めるものとする。

１　一般資料

（共通基準）

１．各分野における原典、古典、名著は既存資料と内容を比較検討して収集する。
２．各分野の主要な全集、選集、著作集、資料集、講座、叢書を収集する。
３．各分野の入門書、概説書は専門的な観点から記述された内容の充実したものを収集する。
４．各分野の専門書、学術書は類書と内容を比較検討して収集する。
５．内容が高度で細分化された専門分野の資料については、大学・専門機関等の収集に委ねる。
６．政府及び政府関係機関、団体などの資料は、各種報告書を中心に収集する。
７．類書が多い分野は、テーマを史実や研究課題として扱ったもの、代表的な観点で書かれた資料を収集する。
８．社会的関心の高いテーマに関する資料は、内容の充実したものを収集する。
９．徳島県と関連の深い内容、県政課題、県民に関心のある課題に留意して収集する。
１０．各分野における受賞作品は、既存資料の利用状況などを考慮して収集する。
１１．増補、改訂版については、旧版との差異を考慮して収集する。
１２．復刻版は、蔵書構成の中で資料的価値のある資料を収集する。
１３．大活字本は積極的に収集する。
１４．実用書は、調査・研究に有効なものを中心として収集する。
１５．保存、利用に適さない形態の資料は、原則として収集しない。一過性ではなく長期の利用に耐えうる資料を収集する。
１６．単行本がある場合は、原則として文庫本より優先して収集するが、リクエストにおいてはこの限りではない。
１７．逐次刊行物扱いの資料と重複するものは収集しない。
１８．劣情をそそる資料については収集しない。

（分野別基準）

各分野においては、とくに以下の点に留意して収集する。

ア　総記

１．情報科学に関する資料は入門書から専門書まで、最新のものを収集し、更新に努める。
２．図書館、図書館学に関する資料は、積極的に収集する。

イ　哲学・宗教

１．世界と日本の主要な哲学者の代表的な著作および哲学に関する解説書、研究書などを体系的・系統的に収集する。
２．超心理学、心霊研究、占いに関する図書は研究書については精選し、それ以外のものについては厳選する。
３．世界と日本の主要な宗教の聖典および宗教に関する解説書、研究書などを体系的に収集する。

ウ　歴史・地理

１．歴史に関する基本的な資料、主要な解説書、研究書を幅広く収集する。
２．日本の歴史に関する資料は、精選して収集する。
３．世界各国、各地域の歴史に関する資料は、蔵書構成に考慮して収集する。

４．伝記は、各分野、各時代の代表的な人物を中心に精選して収集する。
５．地理については、国内外ともに蔵書構成に考慮して収集する。
６．旅行ガイドブックは精選する。主要なものは必要に応じて更新する。

エ　社会科学

１．各国事情に関する資料は、各国、各地域を網羅する。蔵書構成に考慮して収集する。
２．法律に関する資料は、入門書から専門書まで幅広く収集する。法令の制定、改正などに留意して、必要に応じて更新する。
３．政治、経済に関する資料は、入門書から専門書まで幅広く収集するが、長期的な利用が見込めない時事的なものについては厳選して収集する。
４．社会問題に関する資料は、幅広く収集する。
５．教育に関する資料は、幅広く収集する。特に家庭教育、生涯学習に関する資料に留意して収集する。
６．風俗、民俗に関する資料は、各地域、各民族を網羅する。

オ　自然科学

１．自然科学に関する資料は、各分野について入門書から専門書まで幅広く収集する。
２．医学・薬学に関する資料は、人体や病気及び医療についての理解に役立つ資料を中心に収集する。民間医療については、客観性、科学性、信頼性に留意する。
３．科学の楽しさを伝えるエッセイや趣味教養の本なども著者・話題性・内容を考慮し、精選して収集する。

カ　技術・工学

１．最新の研究成果や技術の進歩に留意し、体系的に収集する。各種の規格類、図面、図集などは基本的なものを必要に応じて収集する。
２．研究の成果が生活の安全などに反映される分野に関しては、その知識の理解を助けるよう、基本的でわかりやすい図書を中心に収集する。
３．生活科学については、学術的なものだけでなく日常生活に役立つ実用書を必要に応じて収集する。

キ　産業

１．各種産業に関する資料を幅広く収集する。新しい技術や研究成果および社会的動向に留意する。
２．商業、運輸、通信事業に関する資料は、最新の企業動向、時事性、話題性に留意して収集する。
３．家庭向けの園芸資料、ペットに関する資料は精選する。

ク　芸術

１．国内外の芸術の各分野の主要な解説書、研究書、作品集等を体系的に収集する。
２．個人の画集、作品集については、当該作家の評価、知名度、既存資料との重複を考慮して精選する。
３．コミック漫画は、収集しない。但し、学習漫画は別途に判断する。
４．写真集は、芸術性、記録性などに留意し精選する。
５．音楽に関する資料は、幅広い分野の資料を収集する。楽譜は収集しないが、歌集、楽譜集は基本的なもの、調査・研究に有効なものを中心に収集する。
６．伝記、読み物、エッセイは、既存資料と比較検討し精選する。
７．スポーツは、ルールブックや技術書などを中心に精選して収集する。
８．囲碁、将棋、ゲーム等室内娯楽に関する資料は厳選して収集する。

ケ　言語

１．文字・言語の歴史や成り立ちが概観できるもの、各言語の語彙・単語、文法、音韻、文体等が体系的に理解できるものを収集する。

２．言語辞典は各言語の歴史･文化や有用性を考慮して収集する。

３．学習等のための語学実用書は、目的に合わせてその効果の高いものを精選して収集する。但し、試験・資格を対象としたものは内容を十分に吟味する。

コ　文学

１．内外の文学が体系的に理解できるような文学史、文学論を収集する。

２．古典から現代まで文学史上に登場する主な作品とそれに関する作家論、作品論は幅広く選ぶ。著名な文学作品やその関係書については、精選する。

３．文学形式や小説分野を問わず、描写にすぐれ作品性の高いものを選ぶ。

４．時代性や社会性を反映し、将来評価の対象となりえる文学作品を選ぶ。

５．主要言語の外国作品だけでなく、それ以外の外国作品も秀作を中心に幅広く選ぶ。

２　逐次刊行物

県内市町村立図書館、大学図書館、類縁機関等における収集状況を考慮し、慎重に選定する。

１．雑誌

（１）情報誌は、多様な意見を反映した蔵書構成に努める。

（２）専門誌は、速報性、蓄積性を考慮し、幅広く収集する。

（３）業界誌は、各業界の動向が把握できるものを収集する。

（４）医療・健康誌は、記事の信憑性を吟味し、幅広く収集する。

（５）芸術・文化誌は、幅広い読者を対象としたものを収集する。

（６）文芸誌は、代表的なものを収集する。

（７）実用誌は、日常生活に役立つものを精選する。

２．新聞

（１）主要な全国紙と地方紙、業界紙などを収集する。

３．年刊類

（１）各分野の代表的な年鑑、年報類については、積極的に収集する。

（２）政府刊行の白書、統計類については、積極的に収集する。

（３）統計、調査報告は、一次資料を中心に収集する。また、編集されているものについては体系的に編集され、調査・研究に有用なものを収集する。

（４）継続収集に努めるが、定期的に版を重ねる（改訂される）資料で大部なものは、必要に応じて随時収集する。

３　参考資料

（１）現在の社会情勢、県民の有する課題を考慮し、調査・研究活動を支援するものを、内容の改定に留意し積極的に収集する。

（２）オンラインデータベースは、調査・研究に有用なものを精選する。

（３）館全体の蔵書構成を考慮し、整合性を図る。

（４）地形図等については、一枚ものであるが収集する。

４　特別集書

（１）橋と川に関する資料を幅広く収集する。

（２）農業利水、農業用水（614.3）は原則として除く。

5　郷土資料

１．原則として、次のものを資料の種別に関係なく網羅的に収集する。

（１）内容が徳島地域に関する資料。地域の対象は徳島県全域とする。ただし、近世までは淡路を含む。

（２）内容が徳島ゆかりの人物に関する資料

（３）個人著者等が徳島出身の資料

（４）個人著者等が徳島在住または在職で、その足跡、活動が地域に影響を与えた人の資料

（５）県内自治体，関係機関が発行する地方行政資料

（６）徳島に拠点を置く事業所や各種団体が発行する年報、概要、研究報告、機関誌、記念誌広報、リーフレット

（７）県内の学校等が発行する要覧、研究紀要、記念誌、校誌、副読本、新聞、施設案内

（８）徳島で発行される同人雑誌

（９）徳島を舞台にした文芸作品

(10) タウン誌、ミニコミ紙

(11) 観光パンフレット、イベントちらし

(12) 徳島の地方新聞および全国紙の徳島地方面

(13) 徳島の地図類

(14) その他郷土資料として保存・利用が必要なもの

２．資料全体の一部分を扱っている場合は、量、内容、蔵書構成等を考慮し、必要に応じて収集する。

３．一般雑誌、多巻ものの一部（１巻）に徳島を扱っている場合は該当の巻を収集する。

４．保存用のほかに閲覧用・貸出用の収集に努める。

6　児童資料

１．乳児から中高生など１０代の子どもまでを対象として、次の資料を網羅的に収集する。

（１）児童図書

（２）紙芝居

（３）ヤングアダルト向きの図書

（４）児童対象の録音図書など（ＣＤ）

（５）児童向きの逐次刊行物

２．児童資料室用図書として次の資料を収集する

（１）児童図書や子どもの読書について調査・研究するための資料

（２）子どもの読書推進に役立つ大型絵本や関連資料

（３）但し、教科書及び教科書に関する研究書は、収集しない。

３．収集の制限

原則として、次の形態や内容の資料は収集しない。

（１）形態

・散逸しやすいもの

・組み立て、切り抜きを目的に編集されたもの

・著しく耐久性に欠けるもの

（２）内容

・受験用参考書、問題集

・商業的キャラクターを扱ったもので、マニュアル用として利用されるもの（ゲームの攻略本など）

・戦争、性、生命等を興味本位に扱ったもの

・童謡・わらべ唄を除く、音楽が主となるもの（ＣＤ、カセット）

附則

この基準は、平成２５年４月１日から施行する

Ⅲ　令 和 2 年 度 事 業 報 告

1　企画振興担当 関係

図書館の維持管理及び職員の人事、服務に関する事務を執行したほか、文化の森他館との連絡調整、研修会等を開催するとともに、友好文化団体と協力して業務を実施した。

また、市町村立図書館に対し、援助・協力するとともに、「とくしまネットワーク図書館」システムの充実に努め、県下の中核図書館として県民へのサービスを進めた。

(1)　企画関係業務

①　図書館の維持管理

②　各種統計調査、年報の発行

③　各種講演会、図書館研修会等への職員の派遣

④　徳島県立図書館協議会を 1月19日に開催した。

(2)　協力関係業務

協力車と配送による資料の貸出、県内図書館間の相互貸借を行った。また、県内全公共図書館と図書館未設置町教育委員会を訪問し、情報交換、相談・助言等を行った。

県内高等学校・特別支援学校図書館を対象に希望する資料の貸し出しを行った。また、各読書振興団体と協力して読書の振興・普及を図った。

①　協力車と配送による援助・協力活動を行った。延べ巡回日数　220 日　　延べ配送日数　65日

(ｱ)　市町村立図書館に対する援助・協力活動を行った。

対象市町村数　　19 市町村

協力貸出（リクエスト）　貸出冊数　19,062 冊

(ｲ)　図書館未設置町への資料援助を行った。

対象町数　　5 町

協力貸出（リクエスト）　貸出冊数　3,013 冊

②　相談業務を実施した。

対象　市町村立図書館 27 館、図書館未設置町 5 町、県立高等学校　9 校

③　県立学校図書館への資料援助を行った。

利用学校数　　27　校　　協力貸出（リクエスト）貸出冊数　　2,338 冊

④　団体貸出の実施（職場・学校などの団体に対して貸し出しを行った。）

利用団体数　　5 団体　　貸出冊数　　1,084 冊

⑤　読書会文庫の貸出（１セット10冊の読書会文庫を貸し出した。）

利用団体数　　8 団体　　貸出冊数　　476 冊

⑥　「まなびの森」講演会（生涯学習支援事業）を放送大学徳島学習センターと連携し行った。

開催講演数　　6 講演　　参加人数　　109名

⑦　令和元年度より、総合学術調査を海陽町において実施し、海陽町阿波海南文化村文化館ホールで、8月2日に「令和元・2年度阿波学会海陽町総合学術調査中間報告会」を、令和3年3月13日に「令和元・2年度阿波学会海陽町総合学術調査最終報告会」を開催した。

⑧　11月27日に協力業務実務担当者会を開催し、協力通信 No.262～268を発行した。

■　協力車等の巡回状況　　　（平成22年４月１日から県内すべての市町村に配送開始）

◎：協力車等巡回配送対象市町村立図書館（１９館…各自治体に巡回 ）

□：協力車巡回配送対象教育委員会等図書館以外の施設

2　調査相談担当 関係

県立図書館の基本的資料である逐次刊行物・参考図書・郷土資料を収集、整理、保存して広く県民の利用に供した。

館内及び、館外からの文書・電話・メールによるレファレンスサービス、県外公共図書館への相互貸借、市町村立図書館への協力業務（レファレンス）を進めたほか、郷土に関するあらゆる資料の収集と新聞のデジタル化・マイクロフィルム化を図り利用に供した。

(1)　逐次刊行物関係業務

逐次刊行物は、349,884 冊を所蔵しており、ブラウジングコーナー・新聞雑誌コーナー等には、雑誌 477 タイトル（購入 282：うち 28 は雑誌スポンサー制度、寄贈 195 ）、新聞 50 種（購入 32、寄贈 18 ）、各種の年鑑、白書、統計等を配架して利用に供するとともに、一部を除き貸し出しも行った。

①　資料購入費（備品費）1,867,608 円で、年鑑、白書等 196 点を購入した。

②　資料購入費（需用費）5,126,836 円で、雑誌 3,439 冊、新聞 32 種、官報を購入した。

③　寄贈資料は 年鑑・年報・統計書類 333 冊、雑誌 1,830 冊、視聴覚資料１点を受け入れた。

寄贈新聞は 18 種であった。

④　製本費 161,040 円で、官報 61 冊の製本を行った。

⑤　徳島県内公共図書館の購入雑誌と所蔵新聞について調査し、「徳島県内公共図書館購入雑誌・目録・所蔵新聞目録 2020 年版」を作成するとともに、ホームページ上で「県内公共図書館購入雑誌一覧」を公開した。

⑥　県立図書館応援事業として平成21年度から雑誌スポンサー事業を実施し、令和２年度は、11 団体より28 誌の提供があった。

⑦　雑誌のバックナンバーを用いたミニ展示を一般資料コーナーで行った。

⑧　電子コピー機による複写枚数は、37,526 枚（白黒 36,183 枚、カラー 1,343 枚）であった。

(2)　参考資料関係業務

①　2,985,566 円で 参考図書 208 冊、 46,035 円で 特別集書（橋と川に関する資料）を 14 冊購入した。

寄贈資料は、参考図書52 冊、視聴覚資料2点、特別集書 5 冊であった。

②　電子書籍 1,001 冊、 7,999,913 円を購入し、電子書籍閲覧サービスを行った。

③　参考資料数は 68,260 点であり、そのうち参考資料コーナーには 24,378 冊を開架した。特別集書数は 6,864 冊で特別集書コーナーに 4,435 冊を開架した。

④　参考質問件数は 9,742 件で、内訳は、レファレンス記録記載分 546 件（そのうち、市町村立図書館等からの参考質問は 34 件、県議会・行政機関からの参考質問は 12 件)、所蔵検索等の資料案内件数が 9,196 件であった。

⑤　資料の探し方についての〈調べものナビ〉「調－１ 法令情報を調べる」等を改訂し、配布した。

⑥　資料の相互貸借は、他館からの借り受けが 146 件 214 冊、他館への貸し出しが 443 件783 冊で、合計 589 件 997 冊であった。（協力車等による県内図書館への貸し出しは除く。）

⑦　DVD-ROM版、CD-ROM版のデータベース、国立国会図書館デジタル化資料を閲覧用端末 3 台で、「聞蔵」等のオンライン・データベースを端末 2 台で利用に供した。また、これらデータベースのプリントアウトサービスを行った。枚数は 3,335 枚（白黒 3,325 枚、カラー 10 枚）であった。

⑧　利用者用インターネット端末２台の利用は 292 件であった。

⑨　県立図書館の参考図書の新着案内を月１回「とくしまネットワーク図書館」に掲載し、ホームページで公開した。

⑩　「危機に立ち向かおう！－ビジネス現場の危機管理」展をはじめ、ビジネス支援や健康応援に関するミニ展示を計５回行った。

⑪　県内企業支援団体の協力を得て、経営者向け研究会、講演会、相談会のちらしを収集し、〈しごと応援コーナー〉の一角に設置した。

(3)　郷土資料関係業務

①　資料購入費（備品費）1,120,486 円で、図書 414 冊、ＣＤ　６枚を購入した。

②　216,480 円で新聞等のマイクロフィルム 4 巻と縮刷版ＰＤＦ変換済データ一式を購入した。

③　委託料 39,050 円で貴重資料　4　点のデジタル化を行った。

④　資料購入費（需用費）80,005 円で、逐次刊行物　3タイトル 60 冊と郷土新聞　1　タイトルを購入した。

⑤　寄贈資料　：　図書 578 冊、逐次刊行物 2,169 冊、ＣＤ４枚、ＤＶＤ８枚、カセット11点を受け入れた。

⑥　製本費 213,840 円で、新聞等　5タイトル 37 冊の製本を行った。また、47,190 円で 13 冊の修理製本を行った。

⑦　「徳島新聞」等のマイクロフィルム・デジタル画像の閲覧 340 人、複写 3,229 枚であった。

⑧　研究室１：　33 件 38 人、研究室２：　0 件 0 人、撮影室：10 件 10 人の利用があった。

⑨　徳島新聞縮刷版ＰＤＦファイルをデジタル画像閲覧システムに登録し、館内専用パソコンで利用に供した。

⑩　Web 上に公開されている地方行政資料を当館の電磁的記録媒体に記録・保存した。

⑪　「絵図・地図を愉しむ」展などのミニ展示を郷土資料コーナーの展示ブースで計 8 回行った。

⑫　徳島県文化の森総合公園／とくしまデジタルアーカイブで256点の資料を公開した。

⑬　デジタルアーカイブ構築事業として799,997円で、和古書、絵はがき等277点と新聞4タイトルのデジタル化を行った。

⑭　デジタルアーカイブ構築事業関連講座として、「ジュニアデジタルアーキビスト養成講習会」、「"みんなで翻刻"－ AI と仲間で読んで繋げる歴史資料」を行った。

⑮　平成24年度に運用を開始したデジタル画像閲覧システムから徳島県文化の森総合公園デジタルアーカイブシステムに移行し、文化の森各館が公開するデジタル資料を閲覧することが可能となった。

⑯　これまで使用してきたマイクロリーダー・プリンターをデジタルフィルムスキャナーに切り替えた。

3 資料・児童担当　関係

一般貸出用資料、児童資料を購入及び寄贈により収集し、整理、保存している。それらの資料により、館内閲覧、個人貸出を行った。また子どもの読書活動推進についての研修会、展示等を実施し、障がい者、高齢者へのサービスを充実するため視聴覚資料の収集に努めるなど、県民全体への充実したサービスの向上を図った。

(1)　貸出関係業務

①　図書資料購入費 18,257,135 円で、一般資料コーナー用図書8,488 冊 17,787,513円（大活字本を含む。）、視聴覚資料 70点469,622 円（一般用ＣＤ 53 タイトル、デイジー 12 タイトル、マルチメディアデイジー 5タイトル）をそれぞれ購入し、整理した。

②　寄贈資料 940冊と視聴覚資料6点を受け入れ、整理した。

③　令和２年度末の一般資料数は 771,703 冊（視聴覚資料含む）である。一般資料コーナーに約20万5千冊を開架し、書庫一般の資料は出納により利用に供した。

④　貸出冊数、貸出利用者数、登録者数

6　諸統計（24ページ）参照

⑤　一般資料のリクエスト（予約）は 25,611 件であった。

⑥　障がい者への郵送貸出の利用は、図書・雑誌 333 冊、一般用視聴覚資料64 点、デイジー20枚であった。閲覧室には、活字による読書が難しい人がデイジー図書を利用できる専用端末（プレクストーク）や、据置型拡大読書器を設置し、読書環境を整えている。また、卓上型対話支援システム（コミューン）をカウンターへ配置し、 聞き取りやすさを補助して、利用者との円滑なコミュニケーションが図れるようにしている。

⑦　ＡＶコーナーでは、ＣＤデッキ 1 台を設置し、ヘッドホンにより自由に聴けるようにしている。また、車椅子のまま利用できるＣＤ・カセット用機器を設置している。

⑧　「しごと応援コーナー」において、就職・起業、会社実務、経営・雇用などに関する図書を紹介、貸し出した。

⑨　「セカンドライフ応援コーナー」において、シニア世代に身近な課題をテーマに資料紹介、ちらし・パンフレット等による情報提供を行った。

⑩　平成21年度から開始した県立図書館応援事業のベストセラー寄贈事業では、12 冊の寄贈を受けた。

⑪　ミニ展示を一般資料コーナー検索端末機横の展示スペースにおいて計13回行い、資料の利用促進を図った。

(2)　児童関係業務

①　資料購入費 6,801,376円（うち〈こどもの本充実枠）1,999,834円）で、児童関係図書3,564冊、洋書84冊、紙芝居60巻を購入し、整理した。また、新聞・雑誌購入費は267,848円で、新聞４紙、雑誌を36タイトル366冊を購入し、整理した。

②　寄贈資料として図書515冊、雑誌90冊、・視聴覚資料4点を受け入れ、整理した。

③　こどもの本コーナーに約48,000冊を、児童資料室に子どもの読書や児童図書関連の研究書など約4,000冊を開架図書として配置した。

コーナーの一角に、ヤングアダルトコーナーを設け、中・高校生向けの図書を別置した。

また、子育てに関する図書約1,000冊と雑誌11誌、赤ちゃん絵本約800冊を集め、子育て関係機関等のパンフレットなども置いた「子育て支援図書コーナー」の充実を図った。

④　貸し出しとあわせて子どもの本に関する読書相談及び参考質問に応じた。また、なお一層のサービス向上を図るため、子どもの本、子どもの読書に関する参考図書や郷土関係資料を収集してその充実に努めた。

⑤　児童関係資料のリクエスト（予約）は、9,871件であった。

⑥　学校図書館訪問相談を特別支援学校10校に行い、図書館業務に関する相談と県立図書館のサービスについての案内を行った。

⑦　読み聞かせ団体等104団体に対して、紙芝居舞台など読み聞かせ・おはなし会用の備品168点を貸し出した。

⑧　こどもの本コーナー紙芝居架上で、月ごとにテーマを決めて資料展示を行った。また、折に触れてミニ展示をのべ26回行った。

⑨　子どもの読書に関する研修会・行事

○令和２年度子どもの読書研修会（ボランティアスタッフ研修会）　３月７日　参加者：15名

演題「絵本づくりについて」
講師　白井宏治氏（株式会社あわわ総務部マネージャー　絵本編集者）

徳島県の出版社であるあわわの白井宏治氏に、なぜタウン誌の出版社が絵本を作ることになったのか、編集という仕事について、絵本の基本や絵本の見返しのしかけ、絵本

編集の現場についてなどを話してもらった。また、絵本『おとなからきみへ』や『かけだしたイス』の読み聞かせもあった。

○行事

赤ちゃんと楽しむおはなし会（毎月第２木曜日）	年間８回	参加者：延べ	118名
おはなし会（毎月第２・４日曜日）	年間20回	参加者：延べ	342名
英語のおはなし会	年間１回	参加者：	14名

赤ちゃんと楽しむおはなし会関連企画として、助産師さんによる子育てについてのアドバイス・相談の会「助産師さんとはなそう！」を毎奇数月に開催した。

夏休みのイベントとして、「読書感想文にチャレンジ　２０２０」を開催し、小学生を対象に、「本選びのコツ」「読み方のコツ」「書き方のコツ」を講義した。

また、「図書館探検隊」「親子で楽しむクリスマスおはなし会」も行った。

⑩　広報

『こどもの本コーナーりようあんない』を常備し、来館者に配布した。

また、毎月１回『こどもの本コーナーだより』を発行し、来館者のほか県内の市町村立図書館、四国他県の県立図書館等に配布した。ホームページの「こどもの本コーナー」にも掲載した。

4　図書館システム関係業務

(1)　徳島県立図書館ホームページの運営

平成12年4月から徳島県立図書館のホームページを開設しており,随時更新作業を行っている。

(2)　コンピュータ委員会

各係より選出された9名でコンピュータ委員会を構成し,「とくしまネットワーク図書館」システムの運用などについての検討・作業を行った。また，県立図書館ホームページ及び職員端末用ネットワークシステムの更新・運用作業を行った。情報セキュリティの管理にも取り組んだ。

マイナンバーカードを図書館の貸出カードとして利用する実証事業を引き続き行った。

(3)　システム担当者会（随時）

文化の森６館の担当者の会議に出席。各館業務システム及び文化の森情報システム運用のための各種作業を行った。また，更新及びデジタルアーカイブシステムについての検討や各館の情報交換などを行った。

5　他機関との連携事業ほか

(1)　課題解決サービス

○健康・医療情報の提供

徳島県薬剤師会主催の「まちのお薬相談室」を平成28年６月より図書館１階で月２回実施し、令和２年度は159件の薬効や副作用についての相談が寄せられた。

平成26年11月より「健康応援コーナー」を設置し、関係団体の協力を受けて収集したチラシ、パンフレット類を配架している。

令和３年３月２日から21日には、県保健福祉部保健福祉政策課の自殺対策啓発活動事業（パネル展）を行った。また、徳島大学附属図書館蔵本分館の医療関係の展示のポスターを掲示した。

○しごと応援コーナーの充実

平成23年9月に設置した「しごと応援コーナー」には、仕事に関する図書約800冊・雑誌の他に、ジョブカフェとくしま（徳島県若年者就職サポートセンター）・ハローワーク徳島などと連携して、令和２年度は、191点の就業情報パンフレットやポスター、毎週発行の求人情報などを置き、情報提供を行った。さらに、県内企業の社史・会社案内の収集・提供も行い、関係機関との連携強化を図った。また、ビジネス支援として、県内企業支援団体の協力で、企業支援関係や経営者向けセミナー等のチラシ・パンフレット類を配架している。

○行政支援

県議会事務局の依頼により、テーマ展示の本や調査レポート用の資料を選んで提供した。

(2)　県立図書館 県政情報テラス事業

平成23年11月から、県政情報テラス事業として、県の重点施策や地域の課題をわかりやすく周知、理解していただくコーナーを一般資料コーナーカウンター横に設置している。令和２年度は、35件のパブリックコメントや募集結果を配布・公示した。また、県政に対する15件のチラシを配布した。

(3)　講師派遣、インターンシップの受け入れ、学校教育との連携

県立図書館では、社会教育施設や学校などの要請を受けて職員を講師として派遣している。

生徒が、自分の学習内容や進路に関連した就業体験や見学を行う「中高生の職場体験・インターンシップ」の受け入れも行っている。また、学校教育との連携として、学校の授業・遠足等による図書館利用を促進している。(別表)

(4)　文化の森連携事業

文化の森総合公園開園30周年記念として、徳島県立図書館講演会「創作活動とデジタルアーカイブ」（作家　冲方丁氏講演）を９月22日にイベントホールで開催し、文化の森開園30周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える－とくしまデジタルアーカイブ－」を11月３日から15日まで、近代美術館１階ギャラリーで開催した。

(5)　大学図書館との連携

平成29年３月28日に締結した「国立大学法人徳島大学，国立大学法人鳴門教育大学，徳島県及び徳島県教育委員会による図書館活動に関する協定」に基づき、以下の事業が実施された。

１．交換展示ほか

①令和元年度に県立図書館で実施した「そうだ！図書館に聞いてみよう－レファレンスサービスを知っていますか？郷土編」の巡回展示が、令和３年１月18日から２月15日まで、徳島大学附属図書館で、令和３年３月１日から31日まで、鳴門教育大学附属図書館で実施された。

②県立図書館「電子図書館」プラットフォームからの徳島大学附属図書館及び鳴門教育大学附属図書館がデジタル化した画像データベースへのリンクアクセスを継続した。

２．図書館職員の交流研修

①　徳島県図書館職員第２回研修会に、鳴門教育大学附属図書館から職員１名の参加が、第３

回研修会に、徳島大学附属図書館から職員２名の参加があった。

② 図書館職員の相互訪問研修の実施

９月25日に、徳島大学附属図書館の主催で、オンライン会議による「図書館における新型コロナウイルス感染防止対策」の研修があり、10名の職員が参加した。

３．徳島大学附属図書館の、学術講演会の実施への協力

コロナ禍により、開催が中止された。

４．平成28年８月から、鳴門教育大学附属図書館と徳島県立図書館による相互貸借を実施しており、令和２年度は、貸出302冊、借り受け８冊だった。

５．その他

県立図書館で、各館の利用案内やイベントのチラシの配布や、各館のポスターの掲示を行い、また、学術講演会の案内や大学の月刊誌を県下の市町村立図書館へ送付した。

◆ 令和２年度刊行物

①令和２年度 年報　350 冊 （R2.6.1 発行）

②令和３年度図書館カレンダー　30,000 枚 （R3.2.1 発行）

講師の派遣

期　日	会　場	講座内容等	派　遣　職　員	参加者
６月30日	四国大学	図書館司書業務説明会	加村美帆・仲里亜希乃	15
10月 6日	徳島県立障がい者 交流プラザ	点訳奉仕員養成講習会 「読めないことばの調べ方」	岩代友紀・漆川万実	9
10月28日	県立図書館	牟岐町読書友の会 県立図書館見学	小松真幸・朝日康元	15
12月 1日	徳島県立障がい者 交流プラザ	音訳奉仕員養成講習会 「読めないことばの調べ方」	松原美和・漆川万実	9

インターンシップ

	学　校　名	日　時	参加者	内　容
1	城南高校	10月１日～２日	4	・図書の受入、整理　・書架整理 ・書庫入れ準備　・レファレンス実習 ・コーナーの図書整理、展示図書の集荷等 ・企画振興課担当業務の説明
2	城南高校	11月19日	1	

学校教育との連携－学校の授業・遠足・見学等による図書館利用－

	学　校　名	日　時	内　　容	参加者
１	佐那河内小学校１・２・３年	１０月　９日	見学・自由閲覧	５１
２	石井小学校　３年	１０月１４日	おはなし会・自由閲覧	８４
３	北井上小学校　２年	１０月１６日	見学・おはなし会・自由閲覧	４５
４	浦庄小学校　１・２年	１０月２１日	見学・おはなし会・自由閲覧	４８
５	中野島小学校　１年	１０月２３日	見学・おはなし会・自由閲覧	２５
６	千松小学校　２年	１０月２７日	見学・おはなし会・自由閲覧	１４４
７	津田小学校	１０月２８日	見学・おはなし会・自由閲覧	１０１
８	上八万小学校　２年	１０月２８日	自由閲覧	５２
９	上八万小学校　１年	１０月２９日	自由閲覧	６２
１０	板野支援中学校	１０月３０日	自由閲覧	６
１１	方上小学校　１・２年	１０月３０日	おはなし会・自由閲覧	５６
１２	加茂名小学校	１１月　５日	自由閲覧	７８
１３	八万幼稚園	１１月　５日	おはなし会・自由閲覧	６０
１４	高志小学校　１・２年	１１月　６日	見学・おはなし会・自由閲覧	３４
１５	南小松島小学校　２年	１１月２５日	見学・おはなし会・自由閲覧	７３
１６	長生小学校　５年	１１月２６日	見学・おはなし会	２１
１７	川内北小学校　２年	１２月　２日	見学・おはなし会・自由閲覧	１０６
１８	川内北小学校　３年	１２月　４日	見学・おはなし会・自由閲覧	１０７
１９	宮井小学校　２年	１月２０日	見学・おはなし会・自由閲覧	１４
２０	八万南小学校　３年	２月　５日	おはなし会	１０５
２１	神領小学校　２年	２月１６日	見学・おはなし会・自由閲覧	１４
２２	鳴門教育大学附属幼稚園	３月１０日	自由閲覧	１２８

参考：図書館資料充実費内訳（製本費等を除く）

網掛部分　単位：（円）

		平成２９年度	平成３０年度	令和元年度	令和２年度
○	調査・郷土担当				
（1）	逐次刊行物	7,160,454	7,169,836	7,424,879	6,994,444
	資料購入（備品費）費用	2,003,522	1,977,185	2,133,897	1,867,608
	点数	232	209	253	196
	資料購入（需用費）費用	5,156,932	5,192,651	5,290,982	5,126,836
	雑誌種数	286	285	282	282
	新聞紙数	32	32	32	32
	官報	1	1	1	1
（2）	参考資料　（備品費）	3,783,910	3,306,480	4,442,675	3,031,601
	参考図書費用	3,689,235	3,255,614	4,393,751	2,985,566
	冊数	337	261	349	208
	特別集書費用	94,675	50,866	48,924	46,035
	冊数	35	19	17	14
（3）	郷土資料	1,353,103	1,208,341	877,712	1,200,491
	資料購入（備品費）費用	1,263,225	1,119,578	788,530	1,120,486
	図書冊数	575	471	401	414
	ＣＤ等点数	6	46	2	6
	資料購入（需用費）費用	89,878	88,763	89,182	80,005
	雑誌種数	5	4	4	3
	新聞紙数	1	1	1	1
○	資料・児童担当				
（1）	貸出用図書（備品費）	17,804,626	18,462,351	17,719,741	18,257,135
	一般資料図書購入費	17,304,815	17,973,681	17,251,459	17,787,513
	冊数	8,820	9,008	8,498	8,488
	視聴覚資料購入費	499,811	488,670	468,282	469,622
	点数	82	77	77	70
	団体貸出用購入費	1,841,396	1,840,298	1,826,710	1,958,195
	点数	289	199	202	249
（2）	児童関係資料	6,417,383	6,346,198	6,460,793	7,069,224
	資料購入（備品費）費用	6,144,134	6,137,981	6,182,742	6,801,376
	児童図書冊数	3,729	3,732	3,932	3,648
	紙芝居巻数	54	77	58	60
	ＣＤ等点数	1	0	0	0
	資料購入（需用費）費用	273,249	208,217	278,051	267,848
	雑誌種数	38	37	37	36
	新聞紙数	4	4	4	4
	図書資料購入費合計	38,360,872	38,333,504	38,752,510	38,511,090
	図書購入費（備品費）	32,840,813	32,843,873	33,094,295	33,036,401

6　諸統計

○現有図書資料（令和３年３月31日現在）

〈単位：冊〉

区分 分類	館　内	館　外	こども	計	前年度末現在
0：総　記	125,643	1,338	7,792	134,773	132,636
1：哲　学	61,496	2,090	2,175	65,761	65,128
2：歴　史	121,047	3,499	7,817	132,363	130,947
3：社会科学	321,534	5,239	11,825	338,598	333,821
4：自然科学	106,182	3,733	15,118	125,033	123,126
5：技　術	139,562	2,460	6,302	148,324	146,116
6：産　業	86,195	1,216	2,942	90,353	88,964
7：芸　術	137,926	3,775	17,820	159,521	157,228
8：言　語	24,370	809	2,813	27,992	27,662
9：文　学	235,697	27,808	51,242	314,747	311,774
童　話	9	1,762	15,052	16,823	16,641
絵　本	108	2,409	74,674	77,191	75,959
その他	59,175	1,304	4,404	64,883	64,573
計（冊）	1,418,944	57,442	219,976	1,696,362	1,674,575

○電子書籍受入タイトル数（令和３年３月31日現在）

平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和２年度	合計数
206	286	466	1,001	1,959

○利用者登録者数

区　分	
年間館内登録者数	2,790人
昨年度末有効登録者数	*163,153人
団体貸出（団体）	5　団体
読書会文庫（団体）	8　団体

*貸出利用可能な登録者数を記載

○県外相互貸借(令和２年度)

		四国内	四国外	国会図書館	その他	計
貸出	件数	248	194		1	443
	冊数	494	288		1	783
借受	件数	67	74	4	1	146
	冊数	97	110	4	3	214

○図書貸出冊数（令和２年度）〈単位：冊〉

区　分		冊　数
個人貸出	図書	491,553
	洋書	2,425
	視聴覚資料	14,787
	逐次刊行物	35,259
	その他	3,125
	小　計	547,149
協力貸出	図書館・図書館未設置町教育委員会	22,075
	県立学校	2,338
	小　計	24,413
	団体貸出	1,084
	読書会文庫	476
	小　計	1,560
貸出総数		573,122

○月別利用状況　（令和2年度）

〈単位：日・人・冊・回〉

	開館日数	登録者		貸出利用者		貸出冊数		予約・リクエスト		参考質問						
	(日)	月計	日平均	月計	日平均	月計	日平均	月計	日平均	口頭	電話	文書	メール	資料案内	月計	日平均
4月	25	141	6	11,290	452	36,183	1,447	3,997	160	10	14	1	2	712	739	30
5月	26	371	14	14,904	573	50,901	1,958	5,523	212	22	21	2	8	935	988	38
6月	24	234	10	13,974	582	45,944	1,914	3,176	132	27	14	4	12	688	745	31
7月	26	279	11	14,726	566	48,512	1,866	3,194	123	21	24	4	9	801	859	33
8月	25	270	11	15,369	615	51,990	2,080	3,176	127	20	14	3	18	857	912	36
9月	25	267	11	13,945	558	47,291	1,892	2,866	115	10	16	3	15	868	912	36
10月	26	234	9	14,229	547	48,379	1,861	2,692	104	20	14	3	10	861	908	35
11月	24	187	8	13,577	566	45,954	1,915	2,736	114	11	11	0	13	754	789	33
12月	23	180	8	13,062	568	44,074	1,916	2,923	127	26	9	3	16	692	746	32
1月	17	141	8	10,651	627	36,167	2,127	2,396	141	12	14	0	12	535	573	34
2月	21	280	13	13,491	642	45,971	2,189	3,073	146	23	12	0	12	790	837	40
3月	25	206	8	13,805	552	45,783	1,831	3,084	123	12	9	1	9	703	734	29
合計	287	2,790		163,023		547,149		38,836		214	172	24	136	9,196	9,742	
平均	24	233	10	13,585	568	45,596	1,906	3,236	135	18	14	2	11	766	812	34

＊4/22(水)から5/8(金)まで部分開館

Ⅳ　管　　理

1　組織機構・職員（令和３年４月現在）

館長の諮問等に応ずる機関 ------ 徳島県立図書館協議会　（委員10人）

館　長　藤川　隆 ― 副館長　三月田　淳

企画振興担当

係　長（リーダー）　稲　垣　かおり

係　長	松　原　美　和
係　長	小　松　真　幸
主　席	宇　山　博　子
主　席	西　岡　真　司
主　任	朝　日　康　元
主任司書	大　崎　恵

調査・郷土担当

課長補佐（リーダー）　田　村　加　代

課長補佐	立　石　忠　徳
係　長	林　美　弥
主　席	水　上　英　俊
主　席	山　本　み　ち
主　任	赤　嶺　章太郎
主　任	岩　代　友　紀
主任司書	山　本　翔　太
司　書	溝　渕　真　子

資料・児童担当

課長補佐（リーダー）　中　火　保　江

主査兼係長	髙　橋　律　子
係　長	星　裕　美
主　席	吉　本　満　里
主　任	鎌　田　梨　奈
主　任	仲　里　亜希乃

2　施設・設備

建物の概要

◎　建築面積　4,354.182㎡

◎　延床面積　8,989.594㎡

◎　構　　造　鉄骨・鉄筋コンクリート造　地上３階　塔屋２階

◎　収蔵能力　約120万冊

＜施設規模及び構成要素＞

用途・分類	面積（㎡）	用途・分類	面積（㎡）
＜開架スペース＞	[4,085]	＜管理スペース＞	[1,393]
一般書架スペース	1,638	館長室	54
開架書架コーナー	1,305	事務室（整理作業室）	411
ブラウジング	243	コンピュータ室	48
対面朗読室	13	会議室	87
ワークルーム	22	スタッフラウンジ	60
カウンター	55	集会室（大）	122
こどもの本コーナー	566	集会室（小）	65
開架書架コーナー	502	集会準備室	25
おはなしコーナー	37	控室	24
児童資料室	27	団体貸出室	39
新聞雑誌コーナー	370	図書整理室	74
参考資料コーナー	427	サービスヤード	122
開架書架コーナー	404	展示ロビー	82
研究室	23	応接室	35
郷土資料コーナー	422	警備員室	22
開架書架コーナー	355	更衣室(2)	22
マイクロリーダー室	27	湯沸室(2)	17
研究室	23	倉庫(2)	84
撮影室	17		
エントランスホール	204	＜機械・設備スペース＞	[693]
ロッカーコーナー	69	機械室(5)	575
その他	389	電気室	92
＜収蔵スペース＞	[1,843]	ハロンガスボンベ室	26
館内書庫	1,434		
館外書庫	349	＜その他＞	[975]
貴重書庫	60	１階エントランス	225
＊　書庫は積層式になっているため、実質3,626㎡ある。		その他	750

３ 沿　　革

年　月　日	事　　　　　　　　　　項
大正５年７月24日	大正天皇即位記念として創立。徳島県立光慶図書館と称する。
大正６年６月24日	開館式を挙行する。
昭和20年７月４日	戦災により焼失する。
昭和24年５月３日	徳島県立光慶図書館を再建し，憲法記念館と称する。
昭和25年３月13日	火災により焼失する。
昭和25年７月25日	移動図書館車「文化バス」が巡回を開始し，館外奉仕活動を始める。
昭和25年12月１日	図書館法により，徳島県立図書館と称する。
昭和28年11月３日	館舎を再建し，館内奉仕活動を始める。
昭和30年４月１日	「文化バス」を「やまなみ号」と改称する。
昭和37年３月18日	移動図書館車「やまなみ２号」を増車，やまなみ１号・２号となる。
昭和41年７月24日	創立５０周年記念式典を挙行する。
昭和43年４月１日	徳島県憲法記念館規則が廃止され，徳島県立図書館規則が定められた。 会計規則の一部改正により，憲法記念館から県立図書館に改名された。
昭和45年３月31日	徳島県立図書館規則が廃止され,徳島県立図書館管理規則が定められた。
昭和51年７月14日	移動図書館車を廃車し，配本車「やまなみ２号」を新設する。
昭和52年７月28日	創立６０周年記念大会を挙行する。
昭和55年１月７日	知事が，図書館，博物館の改築，美術館の建設を中核とした「文化の森」構想を発表する。
昭和57年３月23日	文化の森の建設が，徳島市八万町向寺山に決定された。
昭和59年５月９日	図書館基本構想検討委員会が発足する。
昭和61年３月10日	文化の森各文化施設の基本設計が完了する。
昭和62年３月10日	文化の森各文化施設の実施設計が完了する。
昭和62年６月25日	創立７０周年記念講演会を挙行する。
昭和62年７月14日	文化の森各文化施設の建設工事に着手する。
昭和63年２月１日	協力車「やまなみ」を新設する。(移動図書館事業の廃止による。)
平成元年10月31日	文化の森図書館棟の本体工事が竣工する。
平成２年４月１日	文化の森図書館へ移転のため休館する。
平成２年11月３日	文化の森図書館として新築開館する。
平成７年10月17日	文化の森開園５周年記念事業「ベストセラーでみる戦後展」を開催する。
平成12年10月20日	文化の森開園１０周年記念「世紀末大博覧会」を５館共同で開催する。図書館は,「海野十三の描いた未来」を担当する。
平成17年10月22日	文化の森開園１５周年記念企画展「ふるさと再発見－１５の人・もの・場所」を５館共同で開催する。図書館は、「岡本韋庵」の展示等を担当する。
平成22年２月16日	文化の森に移転後、来館者一千万人を達成する。
平成22年11月23日	文化の森開園２０周年記念展「軌跡」と記念行事「文化の森大秋祭り！」を５館共同で開催、おはなし会と阿波学会ワークショップ等を担当する。
平成23年４月１日	貸出カウンターの業務委託を行う。
平成27年９月18日	文化の森開園２５周年記念事業を「ヒトガタをめぐる冒険」を６館共通テーマとして実施。図書館は企画展「ひとが想い描いたヒト」､「アニメその歴史と未来」展を開催する。
平成29年11月５日	創立100周年記念式典・講演会を挙行する。
平成30年４月23日	子供の読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰を受賞する。
令和２年４月１日	教育委員会より知事部局(未来創生文化部)に移管。
11月３日	文化の森開園３０周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える　とくしまデジタルアーカイブ」を各館共同で開催、旧館時代のレコード等を展示。

4 歴代館長

就任年月日	館長	館長事務取扱
大正 5 年 7 月 26 日		県内務部長 広瀬直幹
大正 5 年 11 月 6 日		県内務部長 亀井光政
大正 6 年 3 月 31 日		県学務課長 林 恒四郎
大正 6 年 10 月 10 日		県学務課長 碓野千太郎
大正 10 年 3 月 17 日		司書 岩瀬亀之進
大正 10 年 3 月 31 日	岩瀬亀之進	
大正 13 年 12 月 6 日		県学務課長 鈴木省吾
大正 13 年 12 月 20 日		県内務部長 小島庄吉
大正 14 年 1 月 9 日		県学務課長 松本三郎
大正 15 年 8 月 26 日		県社会教育主事 栖崎善一
昭和 2 年 2 月 14 日	坂本章三	
昭和 13 年 9 月 22 日	今田好太	
昭和 19 年 3 月 22 日		県青少年教育課 三好菊夫
昭和 19 年 4 月 25 日		県青年教育課長 沖田武雄
昭和 19 年 6 月 6 日	大谷幹男	
昭和 20 年 4 月 26 日	岡島幹雄	
昭和 22 年 8 月 31 日	原田武夫	
昭和 24 年 5 月 3 日	蒲池正夫	
昭和 37 年 4 月 1 日	藤居信雄	
昭和 38 年 4 月 1 日	上原浩一	
昭和 44 年 4 月 1 日	竹田俊一	
昭和 50 年 4 月 1 日	喜田泰臣	
昭和 52 年 4 月 1 日	高井静雄	
昭和 54 年 4 月 1 日	石堂廣光	
昭和 56 年 4 月 1 日	近藤俊夫	
昭和 58 年 4 月 1 日	岩佐健二	
昭和 61 年 4 月 1 日	岸 司	
昭和 63 年 4 月 1 日	芝 正裕	
平成 2 年 4 月 1 日	山下博之	
平成 5 年 4 月 1 日	日野精二	
平成 7 年 4 月 1 日	中川 巖	
平成 8 年 4 月 1 日	武市 正	
平成 10 年 4 月 1 日	米澤靖二	
平成 11 年 4 月 1 日	大平明宏	
平成 13 年 4 月 1 日	小田隆昭	
平成 14 年 4 月 1 日	福島啓治	
平成 15 年 4 月 1 日	松平 清	
平成 16 年 4 月 1 日	今崎 聰	
平成 17 年 4 月 1 日	桐本義春	
平成 18 年 4 月 1 日	早見憲一	
平成 19 年 4 月 1 日		近代美術館長 阿部修三
平成 19 年 5 月 1 日	桑村 誠	
平成 20 年 4 月 1 日	上野秀樹	
平成 21 年 4 月 1 日	中井忠良	
平成 22 年 4 月 1 日	林 善章	
平成 24 年 4 月 1 日	青木志行	
平成 25 年 4 月 1 日	吉成 学	
平成 27 年 4 月 1 日		二十一世紀館長 中瀬敬一
平成 27 年 5 月 1 日	槇納正明	
平成 28 年 4 月 1 日	松浦 博	
平成 29 年 4 月 1 日	町田豊治	
令和 元 年 5 月 1 日	野々瀬由佳	
令和 3 年 4 月 1 日	藤川 隆	

Ｖ　令和２年度行事記録

１　集会行事

期　日	集　会　名	講師・出席者等	内　容　等	人員
５月26日	徳島県読書振興協議会正副会長会	正副会長	令和２年度読書振興大会、理事会・総会について	7
６月３日	阿波学会第２回編集委員会	編集委員	阿波学会紀要 63 号編集について	10
６月10日	阿波学会理事会 評議員会	理事 評議員	令和元年度決算、令和２年度計画について	34
６月４日	第１回徳島県図書館職員研修会	講師： 山重　壮一　氏 （高知県立図書館） 徳永　雅彦氏 （危機管理環境部次長）	講義： 「図書館のミッションと戦略」 「徳島県復興指針と図書館における災害対応」	45
７月10日	第２回徳島県図書館職員研修会 （二十一世紀館イベントホール）	講師： 平田　泰子氏 （日図協多文化サービス委員会） 加藤　啓子氏 （絵の本あれこれ研究家）	講義： 「公共図書館における多文化サービス」 「これまでとはちょっと違う、絵本の読み方・届け方」	53
７月19日 ８月23日	図書館探検隊	児童担当	小学３年生以上対象 図書館の事務室・書庫などふだん入れない場所を案内	11 17
７月25日	読書感想文にチャレンジ ２０２０	児童担当	「本の選び方」「読み方」「書き方」の３段階にわけてナビ	13
８月２日	令和元・２年度阿波学会海陽町総合学術調査中間報告会 （海陽町阿波海南文化村　文化館ホール）	海陽町関係者 各班代表者	総合学術調査中間報告（５班）と質疑応答	38
８月２日 ～20日	令和２年度阿波学会学術調査	各班調査員	海陽町内学術調査	34
８月23日	なつのおはなし会	おはなし会ボランティアスタッフ	手遊び、絵本、しかけペーパー、紙芝居、など	17
８月29日 30日	ジュニアデジタルアーキビスト養成講習会（あわっ子文化大使） （二十一世紀館情報文化実習室）	坂井　知志　氏 （国士舘大学） 田山　健二　氏 （TRC-ADEAC 株式会社） 岡野　康完　氏 （四国工業写真株式会社）	小中学生を対象に、地域の文化を記録する方法を学ぶ講習会を開催。坂井氏、田山氏はＺｏｏｍを用いてオンライン講義を行った。	20 17
９月８日	徳島県読書振興協議会優良読書グループ選考会	会長・副会長	全国及び徳島県の優良読書グループ推薦団体を選考	6
９月10日	徳島県公共図書館協議会 第１回研究・研修委員会	研究・研修委員	令和２年度図書館大会及び研究テーマについて	9
９月19日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	30周年ワーキンググループ	旧館時代に利用していたレコードの鑑賞会 テーマ：ハワイアン	5

期　日	集　　会　　名	講師・出席者等	内　　容　　等	人員
９月22日	３０周年記念講演会 （二十一世紀館イベントホール）	30周年ワーキンググループ	講師：冲方　丁氏（作家） 「創作活動とデジタルアーカイブ」	109
９月25日	阿波学会第３回編集委員会	編集委員	阿波学会紀要 63 号編集 ・編集日程の確認 ・査読担当者の決定	13
10月９日	第３回徳島県図書館職員研修会 （二十一世紀館イベントホール）	講師： 塚本　章宏氏 （徳島大学） 服部　敦司氏 （枚方市立中央図書館）	講義：「地理情報をインデックスとした記憶と記録のデジタルアーカイブ」 講義（リモート）： 「読書バリアフリー法と図書館サービス」	46
10月24日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	30周年ワーキンググループ	旧館時代に利用していたレコードの鑑賞会 テーマ：ボブ・ディラン	5
10月25日	おはなし会スタッフミーティング	おはなし会ボランティア	令和２年度おはなし会実施状況について ほか	14
10月25日	徳島県読書振興大会 （つるぎ町大会） つるぎ町就業改善センター	講師： 余郷　裕次氏 （鳴門教育大学）	大会テーマ 「読書を通じて、人と人との絆を深めよう！」	36
10月30日	阿波学会第４回編集委員会	編集委員	阿波学会紀要63号編集 ・査読レポート報告 ・仕様の確認	11
11月３日	あきのおはなし会	県立図書館おはなし会ボランティアスタッフ	大型絵本、紙芝居、手遊び、など	20
11月３日 ～15日	文化の森開園３０周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える－とくしまデジタルアーカイブ－」（近代美術館ギャラリー）		旧館時代のレコードや図書館用品とともに、デジタル化した「阿波名所図会」などを展示・紹介	1，311
11月20日	阿波学会第５回編集委員会	編集委員	阿波学会紀要 63 号編集 ・査読レポート報告 ・入札に関する報告	10
11月27日	協力業務実務担当者会	市町村図書館職員ほか	とくしまネットワーク図書館及び県下の公共図書館の協力業務・相互貸借について	25
12 月６日	クリスマスおはなし会	四国大学幼児教育研究室	うた、絵本の読み語り、工作、スケッチブックシアター、影絵、手遊び、人形劇　など	22
12月９日 ～ 12月15日	文化の森人権啓発展 （文化の森６館共催） 会場：近代美術館ギャラリー		県立図書館所蔵の人権関係資料・識字関係資料を展示	406
12月26日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	講師：石川榮作氏 （徳島大学）	生誕２５０年ベートーヴェンを聴こう	13
１月16日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	30周年ワーキンググループ	旧館時代に利用していたレコードの鑑賞会 テーマ：ヴェルディ「椿姫」	6

期　日	集　　　会　　　名	講師・出席者等	内　　容　　等	人員
1月19日	徳島県立図書館協議会	協議会委員	令和元年度事業実績・2年度事業の実施状況について 第4期サービス向上目標（案）について他	21
2月11日	ふゆのおはなし会	県立図書館おはなし会ボランティアスタッフ	大型絵本、ストーリーテリング、紙芝居、エプロンシアター　など	18
2月13日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	30周年ワーキンググループ	旧館時代に利用していたレコードの鑑賞会 テーマ：「映画音楽」	8
2月18日	徳島県図書館大会 テーマ：図書館とまちづくり （二十一世紀館イベントホール）	講師： 糸賀 雅児氏 （慶應義塾大学名誉教授）	演題：（リモート）「図書館とまちづくりの接点」 報告：「図書館の移転・改装」吉野川市立鴨島図書館・阿波市立土成図書館 「図書館におけるコロナ対応」美馬市立図書館・阿南市立図書館	42
3月4日	講座「“みんなで翻刻”－ＡＩと仲間で読んで繋げる歴史資料」	講師: 加納 靖之氏 （東京大学地震研究所／地震火山史料連携研究機構 准教授） 橋本 雄太氏 （国立歴史民俗博物館テニュアトラック助教）	多数の人々が協力して史料の翻刻に挑んでいる「市民参加型くずし字翻刻プロジェクト〝みんなで翻刻〟」の活動を紹介し、参加者は、翻刻作業を実際に体験した。	5
3月4日	徳島県公共図書館協議会 第2回研究・研修委員会	研究・研修委員	来年度の研修会について	9
3月7日	子どもの読書研修会	講師： 白井 宏治氏 （株式会社あわわ総務部マネージャー、絵本編集者）	講演：絵本づくりについて	15
3月7日	おはなし会スタッフミーティング	おはなし会 ボランティア	2021年度おはなし会実施予定について　ほか	11
3月13日	令和元・２年度阿波学会海陽町総合学術調査最終報告会 （海陽町阿波海南文化村　文化館ホール）阿波学会	海陽町関係者 各班代表者	総合学術調査最終報告（６班）と質疑応答	53
3月13日	３０周年記念　あの素晴らしいレコードをもう一度	30周年ワーキンググループ	旧館時代に利用していたレコードの鑑賞会 テーマ：「チャチャチャ」	3
3月21日	えいごのおはなし会	鈴江 晶子 氏	大型絵本・絵本の読み聞かせ、手遊び（うた）	14

○ 共催集会行事 まなびの森講演会（年６回：放送大学徳島学習センターと共催）

平成21年３月に「まなびの森」事業（生涯学習支援事業）開設のための協定書を放送大学徳島学習センターと締結、平成30年２月に100回目を迎えた。

期　日	講　演	講　師	内　容　等	人員
９月19日	南海トラフ地震と中央構造線断層帯の地震	村田　明広 氏	徳島県が影響を受ける二つの地震について	18
10月24日	自転車の文化とまちづくり	山中　英生 氏	徳島での自転車のまちづくりについて	18
12月19日	赤穂浪士と阿波蜂須賀家その深い関わり	坪内　強 氏	「いとま乞い状」に見る大石内蔵助と徳島藩との絆について	18
１月16日	阿波の文化財を地球科学から観る	石田　啓祐 氏	地球科学の観点から観た県内の文化財について	16
２月13日	蜂須賀家政と関ヶ原の戦い	郡　利明 氏	石谷家文書や慶長の役からの蜂須賀家政と関ヶ原の戦いについて	19
３月13日	戦国大名のおもてなし	須藤　茂樹 氏	将軍足利義輝の三好義興邸御成について	20

計　109

展示事業

期　間	展　示　名	展　示　内　容
４月21日 ～ ６月７日	「読んでみん?みんなのすすめる本 －令和元年度とくしま子どものためのブックリスト１００掲載本のPOPとコメント受賞作品」展	令和元年に徳島県教育委員会が募集した「とくしまの子どものためのブックリスト１００」掲載本のコメントとPOPを、本とともに展示。
６月９日 ～ ８月２日	「雑誌でたどる３０年の流行」	開園３０周年を迎える文化の森総合公園。その間に移り変わったファッション、エンターテインメント、グッズ、スポーツ等の流行を、雑誌の誌面から紹介する。
８月４日 ～ ９月27日	「図書委員が選ぶ、ＳＤＧｓの本」（徳島県学校図書館協議会高校部会との共同企画展示）	県内高等学校の図書委員が、ＳＤＧｓについて考え、感動した本や、お薦めの本を紹介。
９月29日 ～ 11月23日	「文化の森デジタルアーカイブ紹介展」	「徳島県文化の森総合公園／とくしまデジタルアーカイブ」で公開されている各館の所蔵資料とその関連資料を紹介。
11月３日 ～ 11月15日	文化の森３０周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える－とくしまデジタルアーカイブ」（徳島県立近代美術館ギャラリー）	旧館時代のレコードや図書館用品とともに、デジタル化した江戸時代の「阿波名所図会」「有馬山温泉記」を展示・紹介。
11月25日 ～ 令和３年１月24日	「図書館タイムマシン」	大正６年開館の徳島県立光慶図書館から現在の県立図書館まで4代に亘る外観や内部の比較展示。時代毎の資料の形態の変遷を展示・紹介。
２月５日 ～ ４月25日	「ドイツの子どもの本～三色のグリム童話」	200編にのぼるグリム童話のうち、ドイツ国旗の三つの色（黒・赤・金）からイメージされるお話を選び、同じ童話を様々な画家が描いた絵本を見くらべる。

交換展示　　令和元年度企画展示「そうだ！図書館に聞いてみよう
－レファレンスサービスを知っていますか？郷土編」展

令和３年１月18日（月）～２月15日（月）　　徳島大学附属図書館

〃　３月１日（月）～ 31日（水）　　鳴門教育大学附属図書館

他機関主催展示

期　間	展　示　名（主　催）	展　示　内　容	場　所
３月２日～３月21日	いのちを大切にしようパネル展（県保健福祉部保健福祉政策課）	３月の「自殺対策強化月間」に合わせて、自殺予防に関するパネル、広報ポスター等を展示。	１階南側

令和２年度　ミニ展示

ミニ展示コーナー（検索コーナー横）

期間	テーマ
3/24～4/19	新年度を「新書」で！
4/21～5/17	没後30年　池波正太郎
5/19～6/14	情報通信月間
6/16～7/5	ミュシャとアール・ヌーヴォー
7/7～8/2	没後90年 コナン・ドイルと史上最高の推理小説100冊
8/4～8/30	徳島県男女協調週間（ときわプラザ紹介）
9/1～9/27	宇宙に想いをはせて
9/29～10/25	ジョン・レノンとビートルズ
10/27～11/23	ストップ！糖尿病
11/25～12/20	歳時記　12月
12/22～1/24	新年を「新書」で！
2/5～2/28	省エネルギー月間
3/2～3/21	ほっこりと

しごと応援コーナー

6/19～8/19	危機に立ち向かおう！－ビジネス現場の危機管理
8/21～10/14	しごとに繋げる！　広報・営業特集
10/16～1/24	読むハローワーク　お仕事小説展
2/5～3/17	ビジネス書大賞2020
3/19～5/19	かしこいお金との付き合い方

郷土資料コーナー

5/12～6/17	自然を感じて－徳島の野鳥編－
6/19～7/26	自然を感じて-徳島の滝編-
7/28～8/30	阿波おどり-徳島の夏を感じて-
9/1～11/10	災害に備える　命と暮らしを守るために
11/11～12/27	絵図・地図を愉しむ
1/6～1/24	徳島の技
2/9～3/14	徳島とドイツ　板東俘虜収容所関連資料を中心に
3/16～4/28	活躍する徳島県人－2020年の出版物より－

ブラウジングコーナー

7/１～7/31	藍推進月間
8/1～8/30	冲方丁先生
9/1～9/13	図書館マナーアップ
9/15～9/22	冲方丁先生
9/21～	電子書籍閲覧サービスＫｉｎｏｄｅｎ
12/1～12/26	ベートーヴェン生誕２５０年
1/5～1/24	小松左京特集
2/16～2/28	岡本太郎特集
3/2～3/21	東日本大震災と防災

ブックトラックによるミニ展示

期間	テーマ
4/17～6/7	おうちを楽しもう！
6/9～7/5	手芸部！
7/7～8/2	夏ごはん！
8/4～9/6	もののけ先生
9/8～10/4	みゅーじっく
10/6～10/25	秋ごはん！
10/27～12/20	文化の森30周年「みゅーじあむ」
12/22～1/14	年末年始
1/14～1/24	追悼・半藤一利
1/15～2/14	落語で笑って
2/16～3/21	雑誌で読むよ〇〇語
3/23～4/25	お弁当

こどもの本コーナー

〇児童・毎月の企画展示

期間	テーマ
４月	教科書に出てくるおはなし
５月	未来に残したい平成の絵本
６月	かえるの本
７月	つめたい食べもの
８月	パンツの本
９月	宇宙
１０月	手紙
１１月	てぶくろ
１２月	牛
１月	いちご
２月	ねこ
３月	ありがとう

〇児童・ミニ展示

期間	テーマ
4/14～5/10	子どもたちの読書のために
5/12～7/5	ミッフィー65周年
6/30～7/7	たなばたの本
7/7～7/31	コナンドイル没後90周年
7/26～8/30	夏休みの自由研究・読書感想文
8/4～8/30	戦争＆平和
9/1～10/4	リサとガスパール20周年
10/6～11/10	スヌーピーと仲間たち
11/10～11/29	ムーミン75周年
11/20～12/27	クリスマスの本
12/23～1/24	生命保険協会徳島県協会寄贈図書
1/5～1/24	お正月の本
1/13～2/28	追悼　安野光雅
2/5～4/25	ドイツの子どもの本

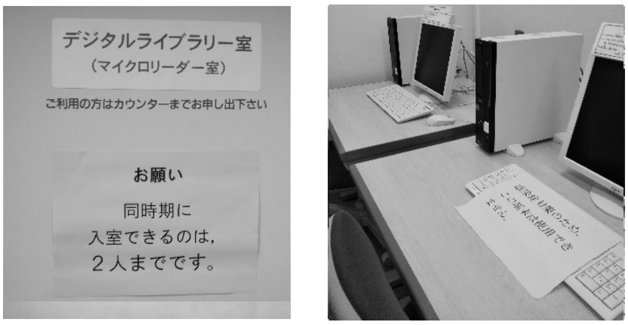
Ⅵ　新型コロナウイルス禍の図書館サービス

令和２（2020）年４月７日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の７都府県に出された緊急事態宣言が、４月１６日に全国に拡大され、それに伴い県立図書館は４月２２日（水）～５月８日（金）の間、部分開館を行った。サービス内容を電話とインターネットによる予約受付、カウンターでの事前予約本の受け取り、返却に制限した。その結果、電話による予約が殺到し（３６５件）、Ｍｙライブラリの登録が増加した。予約件数は昨年度（令和元年度）４月～５月期と比較すると約２倍となった。

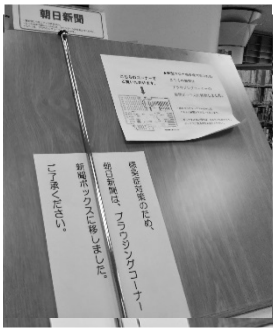
令和２年５月９日（土）からは通常どおり開館した。コロナウイルス感染防止対策として、飛沫防止パネルの設置、手指消毒液の設置、マスク着用のお願い、３密の回避のお願い、コロナ感染注意喚起ポスターの掲示、新聞閲覧コーナーの対面閲覧の禁止、デジタルライブラリー室への入室制限などを行った。

１　飛沫防止パネルの設置

２　消毒液の設置



３　デジタルライブラリー室への入室制限



４　対面閲覧の禁止

さまざまなイベントでも参加人数に制限を設け、受付での検温、手指消毒の徹底など、利用者の皆様に御協力をいただいた。「にちようびのおはなし会」は、子供さんや保護者の方が安心して参加できるように、密を避けるため「おはなしのへや」から子どもの本コーナーに実施場所を変更している。また、「赤ちゃんと楽しむおはなし会」は開催場所を集会室１とし、整理券を配布し、参加者を８組に限定している。

新型コロナウイルス感染症の１日も早い終息が望まれる。

Ⅶ　文化の森総合公園開園３０周年記念事業

（１）文化の森総合公園開園３０周年記念　徳島県立図書館講演会「創作活動とデジタルアーカイブ」

文化遺産を後世に伝える方法として文化の森では、デジタルアーカイブ事業に取り組んでおり、当館では開園３０周年を記念して作家の冲方丁氏を迎え、９月２２日（火）に「創作活動とデジタルアーカイブ」と題し講演会を開催した（参加者：１０９名）。知識を体系化し誰もが容易にアクセスできることの重要性を再認識し、文化の継承のためにデジタルアーカイブが果たす使命について考える機会となった。

（２）文化の森開園３０周年記念共同企画展「文化遺産を後世に伝える」とくしまデジタルアーカイブ

１１月３日（火）～１１月１５日（日）近代美術館１階ギャラリーにて文化の森各館の共同企画展を開催。図書館からは、かつての録音メディアである旧館時代のレコードの視聴ブースを設置。江戸時代の徳島ガイドブック「阿波名所図会」などをデジタル画像で紹介した。来館者にとって、昔懐かしいレコードの音色を堪能するなど、時代と共に様変わりする資料の変遷について興味深く閲覧していただくことができた。

（３）文化の森総合公園開園３０周年記念企画展「図書館タイムマシンー現在・過去・未来ー」

令和２年１１月２５日（水）から令和３年１月２４日（日）当館１階ギャラリーで開催。開館から１００年を越える徳島県立図書館の歴史や収集してきた資料の変遷等を展示した。

＜データで見る徳島県立図書館の現状＞

年度	H28	H29	H30	R1	R2	
開館日数(日)	288	288	288	287	287	
入館者数(人)	430,379	420,415	440,303	432,071	370,268	＊累計14,900,513人、H17から平日火～金は19:00まで開館
登録者数(人)	3,687	3,291	3,326	3,089	2,790	
個人貸出冊数(冊)	586,348	599,113	588,386	583,867	547,149	
協力貸出冊数(冊)	19,282	19,344	24,424	20,100	22,075	＊市町村立図書館等への貸出(図書館未設置は教育委員会へ)
高等学校・支援学校図館協力貸出冊数(冊)	2,197 (22校)	2,918 (21校)	2,238 (24校)	3,308 (27校)	2,338 (27校)	＊県立学校図書館への貸出(利用校数)
県外相互貸借冊数(冊) (内、貸出冊数)	1,473 (1,225)	1,315 (1,102)	1,184 (1,015)	1,225 (1,059)	997 (783)	
リクエスト件数	21,675	23,597	24,594	26,868	38,836	
レファレンス件数	11,386	10,606	11,693	11,061	9,742	
蔵書冊数(冊)	1,205,128	1,193,485	1,184,121	1,186,303	1,200,260	＊雑誌・視聴覚資料を除く
購入図書(冊)	12,550	14,071	13,976	13,456	13,306	＊雑誌・視聴覚資料を除く
雑誌購入種数	331	330	327	324	322	＊官報1を含む
新聞購入種数	37	37	37	37	37	
資料充実費(千円) 内、図書購入費(千円)	37,155 30,855	39,155 32,855	39,155 32,850	39,500 33,136	39,500 33,136	＊H29からは、「知の拠点」事業を含む
人口1人あたり図書購入費(円)	41.07	44.10	44.52	45.33	45.82	
人口1人あたり貸出数(冊)	0.78	0.78	0.80	0.80	0.76	
人口1人あたり蔵書数(冊)	1.60	1.60	1.60	1.62	1.66	
県人口(人)	751,280	744,837	737,939	731,069	723,198	＊県人口は、「徳島県推計人口」当該年度4月1日時点の推定人口

徳島県内市町村立図書館一覧

（横断検索可能館）

	図書館名	住所	電話番号 FAX番号	開館時間	休館日 (年末年始・特別整理期間以外)
1	徳島市立図書館	〒770-0834 徳島市元町1-24 アミコビル5F6F	088-654-4421 088-654-4423	9:00～21:00	第１火曜
2	鳴門市立図書館	〒772-0011 鳴門市撫養町大桑島字蛭子山49	088-685-0255 088-686-6589	9:00～19:00	火曜・第１金曜
3	生涯学習センター 小松島市立図書館	〒773-0001 小松島市小松島町字新港29-11	0885-32-1100 0885-32-7188	9:30～18:00	月曜 第３金曜
4	阿南市役所 阿南市立図書館 図書館カウンター	〒774-8501 阿南市富岡町トノ町１２番地 阿南市役所2階市民交流ロビー	0884-23-2020 ―	9:00～18:00 土日 9:00～17:00	月曜・祝日
5	那賀川図書館	〒779-1235 阿南市那賀川町苅屋308-1	0884-42-3111 0884-42-3299	10:00～18:00	月曜・祝日・月末
6	羽ノ浦図書館	〒779-1101 阿南市羽ノ浦町中庄上ナカレ16-3	0884-44-2100 0884-44-2099	10:00～18:00	月曜・祝日の翌火曜 月末（土日月の時金曜）
7	吉野川市立 鴨島図書館	〒776-0010 吉野川市鴨島町鴨島252番地1	0883-22-2004 0883-22-2014	9:00～19:00	火曜 館内整理日
8	山川図書館	〒779-3404 吉野川市山川町北島19-7	0883-42-5222 0883-26-4101	10:00～18:00	月曜・祝日・月末
9	川島図書館	〒779-3303 吉野川市川島町桑村883-1	0883-25-3141 0883-25-5382	10:00～18:00	水曜・祝日・月末
10	阿波市立 阿波図書館	〒771-1703 阿波市阿波町東原167-1	0883-35-5101 0883-35-5109	9:00～19:00 9:00～18:00（10～3月）	月曜・月末
11	市場図書館	〒771-1602 阿波市市場町市場字上野段212-2	0883-36-6455 0883-36-6456	9:00～19:00 9:00～18:00（10～3月）	月曜・月末
12	土成図書館	〒771-1506 阿波市土成町土成字漆畑220	088-695-5385 088-695-5515	9:00～19:00 9:00～18:00（10～3月）	月曜・月末
13	吉野笠井図書館	〒771-1402 阿波市吉野町西条字大内13	088-696-4686 088-696-5139	9:00～19:00 9:00～18:00（10～3月）	月曜・月末
14	美馬市立図書館	〒779-3602 美馬市脇町大字猪尻字西分116番地1	0883-53-9666 0883-53-6190	9:00～19:00	火曜 第３木曜
15	三好市 中央図書館	〒778-0003 三好市池田町サラダ1836-1	0883-72-2781 0883-76-0514	10:00～19:00	水曜
16	井川図書館	〒779-4802 三好市井川町岡野前64	0883-78-4311 0883-78-4305	10:00～19:00	火曜
17	勝浦町図書館	〒771-4305 勝浦郡勝浦町大字久国字久保田2-1	0885-42-2300 0885-42-4900	9:30～18:00	月曜・月末
18	佐那河内村立図書館	〒771-4101 名東郡佐那河内村下字中辺71-1	088-679-2817 088-679-2173	8:30～17:00	土曜・日曜・祝日
19	那賀町木頭図書館	〒771-6403 那賀郡那賀町木頭和無田字マツギ40	0884-68-2226 0884-68-2566	9:30～18:00 土 9:30～17:00	日曜・祝日 (5/2・4除く)
20	美波町日和佐図書 ・資料館	〒779-2305 海部郡美波町奥河内字弁才天5-1	0884-77-2733 0884-77-0845	10:00～18:00 土・日 10:00～17:00	月曜・祝日
21	牟岐町立図書館	〒775-0004 海部郡牟岐町大字川長字新光寺82	0884-72-2300 0884-72-3301	10:00～18:00	月曜・第３木曜 祝日
22	海陽町立 海南図書館	〒775-0202 海部郡海陽町四方原字旭町38-1	0884-73-3591 0884-73-3551	10:00～18:00	月曜・祝日・月末
23	宍喰図書館	〒775-0501 海部郡海陽町宍喰浦字宍喰375	0884-76-1030 0884-76-1040	10:30～18:00	月曜・祝日・月末
24	松茂町立図書館	〒771-0220 板野郡松茂町広島字四番越6-1	088-699-8722 088-699-8784	10:00～18:00	月曜・月末
25	北島町立図書館	〒771-0207 板野郡北島町新喜来字南古田91	088-698-1100 088-698-1180	10:00～18:00	月曜・第３木曜 祝日（土日の時は開館）
26	藍住町立図書館	〒771-1202 板野郡藍住町奥野字猪熊175-2	088-692-0070 088-692-0170	10:00～18:00	月曜・祝日 第３木曜
27	板野町文化の館 図書館	〒779-0108 板野郡板野町犬伏字東谷13-1	088-672-5888 088-672-5999	10:00～18:00	月曜・祝日・月末
28	東みよし町立図書館	〒779-4702 三好郡東みよし町西庄字横手51	0883-82-1150 同上	10:00～18:00（4-9月） 10：00～17：30（10-3月）	火曜・木曜 祝日・月末（土・日除く）

徳 島 県 立 図 書 館 案 内 図

● ＪＲ徳島駅から／徳島市営バス・徳島バス利用（約２５分）

● ＪＲ牟岐線文化の森駅から／徒歩（約３５分）　バス利用（７分）

開 館 時 間

・ 火曜日から金曜日まで ---------------------------------- 午前９時３０分から午後７時まで

・ 土曜日、日曜日及び祝日（振替休日を含む。） ------------- 午前９時３０分から午後５時まで

休 館 日

・ 月曜日

　ただし，国民の祝日（振替休日含む）のときは、その後最も近い休日でない日

・ 毎月第３木曜日（国民の祝日にあたるときは，その翌日）

・ 年末年始

・ 特別整理期間（年間１０日間以内、例年１月下旬から２月上旬まで）

・ 臨時休館日

徳島県立図書館サービス向上目標（第４期）

～新たな環境下の県立図書館サービス～

令和３年３月

徳島県立図書館では、サービス向上のための改善策や新たなサービスの展開を設定し、その実現に向けて努力していく指針として、平成18年度に「徳島県立図書館サービス向上目標～地域の情報拠点を目指して～」を策定し、以後５年ごとに改正を行い、サービス向上に取り組んできました。また、平成 28 年度からの第3期中には、開館百周年（平成 29 年）事業として「とくしま電子図書館」を構築するとともに、子どもの本の充実等を行いました。一方、令和 2 年に拡がった新型コロナウイルスは、感染防止のため人との接触を減らすことを余儀なくさせ、一時期図書館が全国的に休館または部分開館せざるを得なくなりました。こうして第4期目標策定では、改めて図書館の役割を再考することになりましたが、新たな環境下においても、引き続きしっかりと県民の様々な「知りたい」に応え続けていくことを目指し、電子書籍やリモートといった非来館型のサービスも駆使しながら、努力と工夫を重ねていくことといたします。

県立図書館の役割・運営方針

徳島県の図書館ネットワークの中核として、全ての地域の県民のニーズや課題に生涯を通して応えていくとともに、県全体としての図書館サービスの向上を図ります。

目指す図書館の姿

人と資料とをつなぐ図書館

- ○すべての地域の県民への資料提供
- ○「とくしまネットワーク図書館」の充実
- ○県内市町村立図書館等への支援
- ○他機関・団体との連携協力

探究する人をサポートする図書館

- ○レファレンス機能の強化
- ○使いやすいレファレンス・ツールの提供
- ○他機関と連携したレファレンス
- ○仕事や暮らしの課題解決を支援

徳島を知って、未来を創る人の図書館

- ○郷土資料の収集・保存・活用・発信
- ○郷土関係レファレンス・ツールの強化
- ○徳島に関する調査研究推進
- ○地域の課題解決を支援

読書を愉しみ心を育む人の図書館

- ○多様な資料収集と紹介
- ○子どもの本を網羅的に収集
- ○子どもの読書環境整備と学校図書館との連携協力
- ○読書バリアフリーへの取り組み

Ⅰ　人と資料とをつなぐ図書館

当館では昭和 63 年から市町村の図書館や教育委員会を巡回する協力車を運行し、県内公立図書館等への協力貸出や図書館間の相互貸借を行い、すべての県民が居住地にかかわらず同じような図書館サービスが利用できるよう図っています。さらに平成 30 年度から「電子書籍閲覧サービス」といった非来館型サービスを開始しており、今後も他の図書館等との協力やICTサービスの充実によりすべての地域の県民に図書館資料を提供していきます。

(1) すべての地域の県民への資料提供

すべての地域の県民への資料提供を行うため、昭和 25 年から移動図書館車「やまなみ号」を県下に巡回させ、市町村での図書館設置が進んできた昭和 63 年には、各図書館からの予約資料を運ぶ協力車に交代しました。これからも、全県民が利用できるサービスとして、市町村立図書館と図書館未設置の教育委員会への協力貸出を充実させるとともに、「電子書籍閲覧サービス」の普及と充実を図ります。

(2) 「とくしまネットワーク図書館」の充実

「とくしまネットワーク図書館」システムでは、利用者は県立図書館の本をインターネットで予約し、市町村立図書館を通して借りるとともに、各図書館は他館からの借り受けができます。今後も、「とくしまネットワーク図書館」システムを充実させることにより、すべての地域の県民が、より多くの図書館資料に出会い、利用できるよう図ります。

(3) 県内市町村立図書館等への支援

県内公共図書館の発展を図るため、市町村立図書館等との連携を深め、協力車等による図書館資料の搬送を維持します。また、図書館職員の資質・能力の向上を図るため、徳島県公共図書館協議会等において効果的な研修を実施します。さらに、非常時の図書館サービスの継続に向けた情報共有や検討を行います。

(4) 他機関・団体との連携協力

読書活動の振興を図るため、大学図書館および徳島県読書振興協議会等の読書ボランティア団体との連携・協力により、図書館の利用を促進します。

数値目標	
5冊以上／人・年	県内公共図書館の県民一人当たり貸出冊出
2万冊以上／年	市町村立図書館・未設置教育委員会・県立学校図書館への協力貸出冊数
6,000件以上／年	電子書籍閲覧件数

2 探究する人をサポートする図書館

当館のレファレンスでは、司書による調査・相談はもとより、各種データベースを備え、Webでは「調べものナビ」を公開し、事典や図鑑類は電子書籍でも提供しており、今後も、県民がこれらを十分活用して、深い探究を行えるよう、レファレンスの技能とツールの充実に努め、サポートしていきます。

(1)レファレンス機能の強化

社会の複雑多様化に対応した的確なレファレンスサービスを行うため、各図書館職員の研修に努め、様々な分野で最新の動向を把握し、得た知識を共有して専門性やレファレンス技能を向上させるとともに、新しい分野も含め、多種多様な資料を充実させていきます。

(2)使いやすいレファレンス・ツールの提供

調べたい事項の解決に、利用者自身で、より多くの参考になる本や文献に出会うことができるよう、当館での調査・相談事例のデータベース化とWeb公開を推進するとともに、関心の高いテーマのパスファインダー(調べ方案内)やテーマ一覧を充実させます。また、これらに当館「資料詳細」ページへのリンクといった機能を付加し、Webでできる調べものを拡充します。

(3)他機関と連携したレファレンス

レファレンス・サービスの質を高めるため、国立国会図書館の協力レファレンスをはじめ、県内外の図書館や専門機関と一層連携して、各館が備える機能を相互に活用します。

また、他機関と協力展示を行うことで新たな利用につなげたり、とりわけ文化の森に集まる博物館等の各施設とは、調査研究やコレクション、レファレンス事例といった情報を共有しながら、より専門的な内容に対応できるよう努めます。

(4)仕事や暮らしの課題解決を支援

ライフステージの各場面に対応して設定した「しごと」、「子育て」、「セカンドライフ」、「医療・健康」のコーナーで、暮らしに役立つ様々な資料や情報を時宜に応じて選択・提供することで、問題解決を支援します。起業や経営を対象としている「ビジネス分野」については、各種年鑑・統計書やオンラインデータベースの活用を促進していきます。

数値目標	
50件以上/年	レファレンス事例 Web 公開件数
200人以上/年	主催講演・講座参加者数

3 徳島を知って、未来を創る人の図書館

都道府県立図書館には、その地域の郷土資料センター的役割があり、当館では歴史的資料から現在の地域社会を映す資料まで満遍なく収集・保存しています。今後も、県民がこれらを十分活用して徳島への理解を深め、歴史・文化の継承や、これからのよりよい地域社会づくりに取り組めるよう、資料を充実し、効果的に紹介して支援していきます。

(1)郷土資料の収集・保存・活用・発信

徳島県や県出身者に関する資料をはじめ、行政資料、広報誌、地域情報誌等を網羅的に収集・保存します。また、Webのみで公開された資料の紙媒体での収集や電磁的記録も推進します。さらに、歴史的に貴重な資料はデジタル化してアーカイブで広く発信するなど、郷土資料を適切に保存・活用することで徳島の姿を明らかにし、県民の郷土への理解を高めます。

(2)郷土関係レファレンス・ツールの強化

郷土についての調査研究は利用者の関心が高く、問い合わせが多い分野であるため、豊富なレファレンス事例が蓄積されています。これらの成果は、各司書が共有して調査相談業務の向上を図り、また、郷土関係の事項・人物情報とともにデータベース化し、Web 公開を推進することにより、利用者自身で行う調査研究を容易にしていきます。

(3)徳島に関する調査研究推進

地域に関する調査研究に対して、調査・相談や資料の提供を通じて活動を支援し、研究成果は当館で県民の利用に供するなど、学術文化の振興に努めます。

特に、60年以上の歴史がある「阿波学会」とは、2年ごとに1市町村ずつ実施する総合学術調査を共催し、その成果は地元市町村に還元するとともに、調査報告書を郷土資料として活用します。

(4)地域の課題解決を支援

地域の課題解決に取り組む人や団体、行政機関に対して、積極的に資料の提供や調査・相談サービスを行い、その活動や業務を支援します。また、こうした活動等に協調して、資料展示や県政情報の提供を充実させるなど、より多くの県民が関心を高め、課題解決に関わっていきやすくなるよう啓発に努めます。

数値目標	
3,000冊以上/年	郷土資料収集冊数
40件以上/年	行政支援サービス件数

4 読書を愉しみ心を育む人の図書館

当館は、蔵書が常に幅広く新鮮な構成となるよう、また、子どものときから読書に親しめることなどに留意して選書に努めてきました。これからも県民ひとりひとりの様々なニーズに応えられるよう多様なテーマの資料を収集するとともに、生涯を通じた「知る」「学ぶ」場として環境を整えることにより、県民の豊かな読書活動を応援します。

(1) 多様な資料収集と紹介

県民が読書そのものを愉しむとともに、それぞれが抱く興味関心に生涯を通じて応えていけるよう、豊富で多岐にわたる内容の資料を、図書・雑誌、視聴覚資料、電子書籍といった様々な形態で収集・提供します。

また、社会的なものや個人的なものを問わず、ありとあらゆる新たな読書テーマの発見につながる提案を行うために、多様なブックリストを作成してWebや資料展示で紹介したり、講演会といったイベントを行い、読書の喜びを高めます。

(2) 子どもの本を網羅的に収集

当館は、昭和 40 年代から子どもの読書推進のため、絵本・童話をはじめ事典やヤングアダルト向けの本、さらには児童書や児童文学者の研究書まで、すべての子どもの本を網羅的に収集した結果、子どもが楽しめるだけでなく、保護者や図書館・教育関係者等にも役立つ 20 万点に上る「子どもの本の資料センター」に成長しています。今後も引き続きこの役割を果たしていけるよう、年間児童書出版点数の 8 割以上の収集を目指していきます。

(3) 子どもの読書環境整備と学校図書館との連携協力

子どもたちが読書に親しむ環境をつくるために、おはなし会などの活動を行います。

また、読みたい本との出会いを増やすパスファインダーやブックリストを作成して、Webや資料展示で紹介します。

さらに、電子書籍を含む調べ学習用図書の充実や協力貸出、協力レファレンスにより学校図書館との連携を深め、自主的な読書活動を支援します。

(4) 読書バリアフリーへの取り組み

障がいの有無にかかわらず県民が読書活動を行えるよう、当館は大活字本や録音図書といった多様な資料の収集や、来館が困難な障がい者への郵送貸出サービスなどを行っています。令和元年に「読書バリアフリー法」も施行され、視覚障がい者等が利用しやすい図書等の一層の充実に努めるとともに、こうした資料やサービス、読書支援機器が十分活用されるよう、誰もがわかりやすい館内表示や、市町村立図書館を通じた広報を行います。

また、日本語が母語でない人の読書活動を支援するため、様々な言語による資料の収集に努めます。

数値目標	
70回以上／年	資料紹介展示回数
3,200冊以上／年	児童書の年間購入冊数
350点以上／年	読書バリアフリー資料収集点数
40 万人以上／年	入館者数

徳島県立図書館　　　年　報　　令和３年度版

発行日　　　　　令和３年６月１日

発行人　　　　　〒770-8070
徳島市八万町向寺山
文化の森総合公園
徳島県立図書館
館長　藤川　隆
TEL　(088)668-3500（代）
FAX　(088)668-6904

この冊子は，再生紙を使用しております。